

石巻市

文化財だより

第14号

も く じ

石巻市真野萱原・舎那山長谷寺総合調査報告	
——その1——	
佐藤 雄一	1
毛利コレクション所蔵文書伊達家文書(二)	
石垣 宏	23
文化財めぐり・文化財講座	28
石巻市所在指定文化財 他	29
旧町名表示石柱設置事業	30
文化財説明板設置事業	32
石巻市の遺跡(付・遺跡地図)	36
石巻市文化財だより概刊号案内	48

石巻市教育委員会

石巻市真野萱原・舎那山長谷寺総合調査報告

石巻市文化財保護委員 佐藤雄一

本調査報告は、昭和五十八年、五十九年度にわたり、舎那山長谷寺関係の資料を調査することによって、石巻市内寺院調査の一つのきっかけにしようとする意図によって開始されたものである。

立案者は木村敏郎氏であるが、五十九年度になって勤務の関係で、石巻市文化財保護委員を辞任されたので、佐藤雄一が引継ぐ形で報告書を作成したものである。各部の担当者は次の諸氏である。

なお、真野村の中心資料と考えられる「真野村風土記御用書出」は石巻市史編纂資料第五集伊寺水門に、宮城県史所収の高橋克弥氏所蔵の写本と舎那山長谷寺蔵の写本を比較掲載しているため、本報告には集録していない。

①長谷寺並びに長谷堂記及び過去帳書込みの解説・解説

女川町立女川第五小学校 木村 敏郎

②舎那山長谷寺境内の板碑調査

宮城県石巻高等学校 佐藤 雄一

宮城県石巻女子高等学校 山内信子 亀山陽子

石巻市立女子商業高等学校 大坂 香 杉山恵理

③長谷寺境内測量

宮城県石巻工業高等学校 吉田友和 遠藤信実 土井光夫

④大悲閣長谷堂並びに山門図面作成

高橋 賢一

⑤仏像・絵馬について(次号掲載)

宮城県石巻高等学校 佐藤 雄一

黒田写真館 大友 昇

⑥長谷寺の植物について(次号掲載)

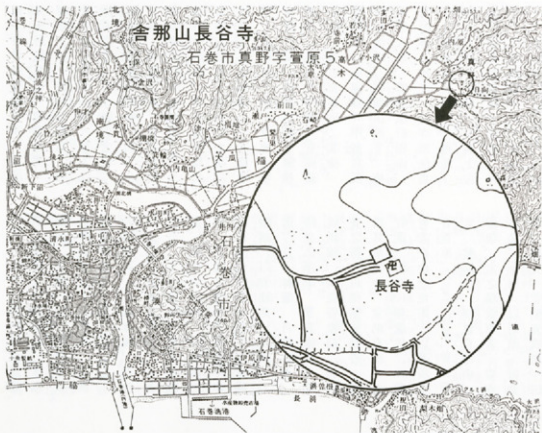
石巻市立蛇田中学校 佐々木 豊

⑦近世の石碑について(次号掲載)

宮城県石巻高等学校 佐藤 雄一

◎社麿三十三所の御詠歌について(次号掲載)

宮城県石巻高等学校 佐藤 雄一



①長谷寺並びに大悲閣長谷堂

長谷寺の縁起については、「風土記諸寺院書出」曹洞宗舎那山長谷寺のこととして、次のような記述がある。

一開山之事 当寺ハ住古之寺ニ御座候、誰開山ト申義ニ年月其頃之宗旨相知不申候、当郡津村曹洞宗兩峰山梅溪寺第八世傳室宗好相尚天正年中中興ト当安永二年迄天保二年ニ罷成候事。

一小名之事 萱原
一故事采歴之事 住古ハ真野萱原長谷堂長谷寺ト申候、先年ハ天台宗ニ成座候哉委細之儀相知不申候事(中略)

一最初之地移轉之事 先年ハ当山之境内寺館ト申所ニ住居仕候處、当所に引移シ候年月相知不申候事

これによると、昔は長谷堂長谷寺といわれ、天台宗の寺であつたやうである。しかし、現在は、舎那山長谷寺と呼ばれ、曹洞宗である。そして長谷堂は大悲閣と稱し、眞原観音堂と呼ばれている。さらに、この長谷堂については、風土記書上の仏閣の部に次のような記述がある。

一長谷堂
一小名 萱原 曹洞宗舎那山長谷寺境内

一勸請 藤原秀衡公御勸請被成、鎌倉主将御再興縁起御座候、舊、右年月相知不申候事
すなわち長谷寺と長谷堂は別のも

のとして扱われているし、現在も、別個の建物であり、長谷堂は長谷寺の一つの附属物のやうである。この長谷堂と長谷寺の關係を示すものが、次の長谷寺所藏の「長谷堂長谷寺ノ記」である。この文書は、今までに公開されていなかったものであるが、長谷寺住職永松泰信氏の好意により全文の公開がなされることになつたのである。文書は貞享三丙寅陰三月吉日の紀年銘があり、ほぼ三〇〇年前前の記録であるが、その内容は舎那山長谷寺を知るための資料であるばかりでなく、ひろく、真野村全体の古き姿を復元するのに重要な役割を果してくれるものであると思われ。

「長谷堂長谷寺記」

奥州・牡鹿郡、真野村者、倭歌名所也。以萱、所稱其名、萬葉集所謂陸奥、真野萱原、是也。其餘倭歌多、粗見累代撰集。不備于是焉。此處有萱、最異様也。土人傳稱以此有萱故、名曰真野萱原也。其萱至立秋、則葉皆倚片葦、而假東南焉。故或呼曰片葦。舊有舎那山長谷寺、寺有堂、曰長谷堂、安觀世音菩薩靈像。古記言、

鎮守府將軍從五位下、藤原秀衡所始置也。殿堂之美、掃崇之信、實可想觀焉。物換星移、堂宇破壞。罹上雨傍風之患、時、鎌倉主将、遙崇奉尊像有靈驗、命平小三郎、再建立之。異石良材、丹漆黝墨殆倍舊觀矣。後又、為野火所燒、堂宇盡灰燼焉。有號道仏者、司當堂之事、故懷其愁也甚深矣。志願所至、遂經數十年、當建堂宇、金碧一新、以復古制、漸積歲月、而又悉朽壞、有兩歲主者、揮志營替焉。其後、罹兵亂、而回祿、不餘片瓦、拂地消滅、我洞山派下、梅溪第八世、傳室龍舒和尚、惜古跡之銷沈、造寺而住焉。亦號舎那山長谷寺、禪誦香火、日夕不辭、振洞上古風、增覺苑光華、按夫、當寺、初為教院、然不知為何宗、唯有道仏、兩歲主、二師之名、而未詳其為人也。嗚呼、不惜乎。龍舒住此以還、洞上宗師、相尋而住、遂以龍舒、為第一祖、龍舒嘗欲再興長谷堂、而不果、有興津源兵衛者、永祿七甲子年、大抽精誠、莊嚴尊像、造堂而安焉。至天正年中、寺及堂宇、又向毀敗、有明覺院者、募化於諸方、成修復之功、其後又廢矣。延寶年中、快音座元掌其寺務、化有緣檀越、以營建焉。且抽信心者、三十餘輩、月結勝會、修念仏淨業、及其滿散、鑄就新鐘、掛長谷堂前、表供養之儀、以備迴迦晨昏、可謂其華偉矣。堂前有池、池有蘆、所謂片葦也。此蘆昔者在池之東南、以其所、日萱原、長谷前住某、曾造斯堂、墾斯池、移蘆自池中、爾後、古之稱萱原者、變成田矣。今則、以斯池、擬萱原、想夫、萱原變成田、田園變成萱原、蓋是、理之常

呼、不惜乎。龍舒住此以還、洞上宗師、相尋而住、遂以龍舒、為第一祖、龍舒嘗欲再興長谷堂、而不果、有興津源兵衛者、永祿七甲子年、大抽精誠、莊嚴尊像、造堂而安焉。至天正年中、寺及堂宇、又向毀敗、有明覺院者、募化於諸方、成修復之功、其後又廢矣。延寶年中、快音座元掌其寺務、化有緣檀越、以營建焉。且抽信心者、三十餘輩、月結勝會、修念仏淨業、及其滿散、鑄就新鐘、掛長谷堂前、表供養之儀、以備迴迦晨昏、可謂其華偉矣。堂前有池、池有蘆、所謂片葦也。此蘆昔者在池之東南、以其所、日萱原、長谷前住某、曾造斯堂、墾斯池、移蘆自池中、爾後、古之稱萱原者、變成田矣。今則、以斯池、擬萱原、想夫、萱原變成田、田園變成萱原、蓋是、理之常

也。堂宇之屢預興廢者、不亦宜乎。人若以此推之、則國家之盛衰、古今之得失、出生入死、及諸夢幻法、皆可立而識破其根源矣。是所謂就假入真之術也。快音一日請作寺及堂記、乃採撰舊記所載、撰述此篇、永詔後世、

于時

貞享三丙寅陰曆三月吉日

洞山派下輪王傳燈沙門打誦

軒主無為子古法和南記

詠、真野萱原倭歌

萬葉集三

菟屋女郎

陸奥之真野乃草原難逢面影、為而所見言物乎

統古今十一 権大納言頭朝

また見ねはおもかけもなし

なにしかも真野のかやはら

露置かるらん

建仁三年歌合 定家卿

露わけむ秋のあさけはとを

からてみやこやいくか真野

のかやはら

中務卿親王

故郷の人の面影月にミてつ

ゆ分あかす真野のかやはら

新古今集六 衣笠内大臣

霧婦かき真野の萱原面影の

ほのミしよ里は身をは離れぬ

夜もすから真野のかやはら

さらさらと池のミきハも水

しにけ梨

①、田 長谷寺過去帳の書き込み

長谷寺の過去帳は安永八年以前の

ものはなく、それ以後のものは比較

的よい状態で保存されている。特に

過去帳(堂)、過去帳(式)には行間に

当時の世情が書き込まれており、江

戸時代の真野村の状況を知らしてく

れる。

弘化三丙午年

弘化三丙午年、仙台御城下□古

町面大地十町、四面□□成候。

弘化四丁未正月三日、天道式林

立、同月十六日四ツ時、天道三

林影成り候。

寛政五丙午年

正月七日四ツ時、十日迄大地震、

人家数相知不申候。

寛政七卯年

二月四日、松音寺大底和尚、赤

子養育之為、教化御回村被成一

件、当寺にて止宿。

寛政九巳巳年

此八月十二日夜、大南風大時化

洪水、仁王門屋根とられ、寺内

屋根破損、庫裡箱むねをとし、

九月五日夜、南、大時化、大水、

稲近村流され、はせ等吹かハさ

れ、同十六日、大雷雨。夫、日

中雨。

享和元西八月廿四日、先住英秀

和尚、水沼龍泉院移転ニ付、後

席高木吉祥寺惠観和尚、後住ニ

相成。

六月、大雨にて小屋崎迄大水、

夫故、八月廿日祭禮ニ酒無之、

米芯切付式斗四升、其後式斗九

升位、錢ハ四ノ四百位。

享和三亥年

此月(八月)田植仕舞不申内ニ

洪水、致三日之夜大雨、小屋崎

迄水参り、七日斗引不申候。米

ハ石巻四斗致。

辰ノ九月九日、惠観和尚十五

之内、立ノ龍沢寺へ移転ニ付、

後住長面浜龍宮院瑞苗長老、後

席文化四年、松前一件にて、日

本諸大名松前へ御出、御手前供

ヒノ栄馬□□七百ノ伴にて

御出、難なく帰郷。七月廿九日

八月十八日迄、昼夜三十三日

雨ふり、此年ハ土用水も余り、

三度洪水いたし候得共、作方相

應致。

夏中天气にて、七月十六七日大

雨、洪水、十八日少晴、十九日

大雨、小嵐外土で、井内土で切

れ、廿二日迄水引不申、廿三四

天氣、廿五日雨尚更、八月十七

日九ツ迄水降り雷雨、八ツ時九

月廿一日晩ノ大雨、廿三日朝迄

也。

廿九日ノ大雨にて村方水損ニ罷

成、館山西地遠□□竹伐方御

本山江頼書相達候事。

文化十四年

先住瑞苗和尚、湊多福院江出頭、

後住高木村吉祥寺鞭牛和尚。

文政三辰年

此年再会興行、四月三日入寺、

首尾長林寺興道。

當寺十三世鞭牛和尚、寄磯浜宗

徳寺江移転、後席溪秀院後梁和

徳、同月廿二日親言祭日入院。次

ニ同月廿二之朝、東大嵐、大洪水

降、段々曉方ニ成大嵐、大洪水

ニ真の水沼、土出教ヶ所破

損、御田地湖海之様ニ成、近年

覚無之大水也。

次ニ同年十二月五日之朝、六日

七日迄、大雪大雷ニ雪積事五

尺余、山々谷々之古木、一枝ニ

葉ハ吹打し、若木ハ倒伏シ、於

御当国ニ誰も覚無之大雪也。

雪ハ豊年之瑞ト賦也。翌年ハ天

氣和合ニ、五穀成就、海魚満

足。

崑、文政七年甲申四月吉日、客殿屋根替請^ニ、棟裡表替六十六斗、内三十一枚、新表六口、想入料金七八切五分、飯米糶外也。

同年四月十三日^ノ十四日迄西風^ニ而大雨降、川土出数ヶ所破損、船渡^ニ小嶋、井内込迄苗代水かぶり、苗青のろの逆ニ罷成候処、氣候宜敷故、苗本服仕、植取満足致、段々種葉情長、通見事ニ出仕、花納候所、八月十四日晩方^ノ十五日迄、東風、嵐、大雨ニ當り候得共、實、諸方宜敷見^ヘ候所、蒔方ニ付大ニ損毛也。

文政八^ノ九年

文政八^ノ乙酉六月廿八日十方暮^ニ而晩方^ノ東風入相、雨天長續、七月十三日^ノ十四日迄大雨、南部悪水^ニ井内土出水想越、百軒程切、誠ニ湖海之如、荷作草毛宜敷花持開掛候処水故、青立ニ罷成、皆無。米相場三斗^ノ三斗四外迄、八月祭礼御神酒なし。同年二月中、松平越前守殿^ノ御屋形被付直々献上。

文政九^ノ丙午年

五穀成就
文政十一戊子^ノ七月八日^ノ十一日迄雨天大水^ニ而昼夜村中大騒動、十三日昼時、上野土出五十

軒程切、大谷地江押込、湖海ニ罷成程南部悪水弥増、立合半作罷成候得共、御年貢引方無之、上下共ニ甚難義仕、米相場三斗^ノ三斗四外迄、式外迄、御分領不及申内ニ、浦谷、志田、遠田、登米郡、誠輸入候。

文政十二^ノ己丑年

文政十二^ノ乙丑^ノ年^ノ同十三寅^ノ年兩年、夏中東風土用迄吹、天光不和、付作之物不宜、漸々實宜敷見^ヘ候得共、作物不足、御年貢無引方御上納。春夏秋冬、米相場式斗五斗^ノ三斗、式外迄、大ニ御百姓誠迷惑也。

文政十三^ノ丙寅年

天保元年^ノ改曆
天保四^ノ癸巳年^ニ天明四^ノ辰^ノ亡存半百忌、三月廿日^ニ施餓鬼供養、次ニ、廿一日^ノ四月迄長普請井鐘樓堂、仁王門、屋根替々谷村入料。次ニ衆寮、総門^ノ百分中料。

首尾能成就之所ニ五月甲子日^ノ東風吹初立、六七八月初迄天光不和、洋々稲穂出揃、半作ニ見立候所、九月初ニ大雪降り、卒立候而も御分領^ノ少々かり取。米相場六七八九迄式斗、十月^ノ翌^ノ正月迄一斗、御上^ノ御教助^ノ之御法ニ付、御国元^ノ餓死不足、南部領、出羽領、餓死多し。米相場八斗^ノ六斗迄。天保五^ノ甲午年^ノ年^ノ天光和順、六月七

月炎天^ニ付、粟大根諸国迄不作、五穀成就、米三斗^ノ四斗迄。天保六^ノ乙未六月廿四日昼九ツ時大地震、小嶋新橋破損。壬午五月^ノ雨天、六日之夜明^ノ九ツ迄大風、大雨、大洪水。内ノ原、藤木、竹ノ原式ヶ所切、不作。米式斗五斗、四斗、御城下大橋破損、御領内所々之破損也。

天保七^ノ丙申年

四月十二日甲子日^ノ東北南風入相^ニ而吹、天光不和、雨天続。七月十八日南、大風。八月朔日大洪水。米六斗、五斗、四斗五斗、三斗三斗。大豆一斗式斗四斗。赤豆三百四十。翌西^ノ六月迄、右相場^ニ而餓死人右之通。

(12名略)

同年四月^ノ五月迄、南沢^ノ仏法申西兩年同^ノ六月。同、公方様^ノ丸焼失ノ事。天保七^ノ丙申年四月十二日、甲子^ノ東北南風入相吹、天光不和、雨天続。七月十八日南、大風。八月朔日大洪水、同日朝^ノ卒餓死風吹初、段々人も卒者有。五穀卒立、米六斗^ノ五斗、四斗五斗、三斗三斗。大豆一斗代百五十^ノ式斗百四十文。赤豆三百四十文。喰物高直、諸道具私方至安し。一、御上様^ノ御求助施米^ニ大五人付一合、粥^ニ被下置候得共、大勢之夏故、行届兼、

十一月^ノ翌西^ノ二月迄、右之通一、男女之強盜^ト成、十月^ノ翌西^ノ三月迄所々之放火多し。一、親子之情合別、親^ノ子捨、母捨、親方^ヘ走者多し。皆餓死去、所々^ニ而ハ牛馬猫、人、人を喰も有、中々恐き事共也。大根斗^ノ由。

一、御上様^ニ而諸国^ノ米大豆相調被下、御城下御家中、町人小人三順之御割入込被下置候。次ニ諸国^ノ壳割込込、浦々^ニ而米相場六斗^ノ五斗、翌西四月、五月迄清酒一盃^ニ付、百式十文。天保八^ノ丁酉年、天光和順、麦作よし^ニ付、人々救人三〇。

一、御上様^ニ種粒御備被下候所、付方不存一同^ニ付上被仕候所、粒不同故、俵内^ニ而焼失、大損毛、右不作時之粒^ノ、杵切溜之様々物^ニ付、天日^ニ当^レ方也。能々付方^ノ一之夏也。一、土出切場所^ノ花、日影沢、日向、出合四^ノ壺、内容地、所破損手入。

一、御上様^ノ真野村土出、御教助御善請米、大豆粒、塩等迄被下置。次ニ仕付御^ニ金五拾切御手当被下置候。御部奉行、御代官^ノ御善請役人、星清左衛門、但木喜三郎御兩人、於長谷寺^ニ右金配分被仰付、難有事^ニ奉存候。田植、五月初^ノ六月土用迄、七月朔日迄。土用六月廿二日過夫^ノ御人足、大瓜村境村岡村^ノ

夫^ノ御人足、大瓜村境村岡村^ノ

□組頭立添。五日之内植方仕候。土用過ニ候得共、少々實取申候。天保九戊戌年。

一、公方様御替ニ付、御巡檢様御通、石ノ巻ニ宿也。

天保九戊戌年、麦半作。五月甲子廿四日。七月甲子廿五日迄東風南入相ニ吹、七月十日ニ青天十三日、西風ニ吹、十五日朝水需降、本地通り之分卒立、谷地分ハ半作。米相場老斗、大豆、麦同段。物々高直也。

一、於長谷寺、閏四月迄江湖被仰付、首座師ハ尾州春日郡二子村日光寺、兼安瑞應祥岩年□四安居日。

同年五月廿八日。雨天、六月二日。南部逆水ニ而、川袋土出切、前前谷地土出切一面不作、大谷地作方、酒作、米相場式斗也。

天保十己亥年。

同年正月十一日。狂々東風ニ而大雪降、正、二月風、三月二日大雷、同月廿二日暮六ツ時大雷、夫々氣候宜敷御座候。米相場八斗。

同十四癸卯年。

此年正月六日上寺ニ相成り、二月八日ニ漆多福院大般若ニ而、内々俊住之儀相極り、御取上長沢村福昌寺遷居移転、三月廿日丹香山。上寺故、山内外共ニ相乱レ、有物は本尊観音己、箸はふきニ迄一切無之、疊等迄散乱

致し、住職も六ヶ敷故、晋山ニ大施餓鬼等致し、其年之法事取極免、飯々親音札之者迄一切事無之。無是非、八月祭礼ニ石巻方迄願之上、内開帳。凶作七年之事ハ不寄何事常住者迷惑、村々大衆へ布施斗り、手傳五切者本金歩歩之節手形ニ而切納し、手傳外道師ニ布施等迄一切なし。客斗り五六百人ニ相成り、常住ニ而五拾切以上。尤、追々能成り、壬十月朔日。二日。大雨ニ相成り、大洪水竹之は土手破れ、稲も皆流、不迄半作ニ而□夜致シ、山木迄溪秀院俊峰長老留主中弘へ、其節。世話人は門前嘉右衛門、庫下覆替ニ付、世話人立替、舟場清兵衛、内原吉郎太、太日向与三郎、日影三郎右之衆ニて俊峰長老。大沢ニ帰り之節、右之者ともだまされ、常住物等、桶、箸、屏風之皆迄を合、誕生仏等迄忘失、誠ニ苦巴、其年、福助稲荷神ノ宮取立後、其始、馬正月十日ニ祭礼と相定めた後、御祭可被出候。以上。

十五世頼宗大機老納代。

晋山之節橋孫兵衛且頭故、案下置帳。開帳之如来尊御宿、水沼龍泉俊嶺長老、真法良源首座高木吉祥普秀長老、多福良源連長老、大瓜龍洞玄播長老、□当長老、松雲首座、最首拝宿ニ人アリ。

九月朔日。雨ニ而、二日早朝大洪水は分一同迷惑、米志舛八十文也。

天保十五歳。辰弘化元年改之。春中大風二月十四日。風ニ而、門前大松枝折、從其霖雨。四月廿二日。雨不霽。七月廿四日。雨ニ而、廿六日。天氣、廿七日。霖雨なり、六日風起、七月廿四。大雨。八月八日洪水、他事ニは一切無事。

弘化二己年。

元日。雪雲、四日天氣、種々大風、二月朔日。二日迄大雪、四五尺重、其。十七、十八と雨、後。天氣、三月二日三日雨、四日。天氣、此年結制首座は尾州人宗鳳長老、廟法之志也。三月廿七日。縁出とつ唱傳利ニ止宿、尤、首座法幢己ニ昌傅之掛籍なり、孫山納金八百式拾切、披露相催三拾切切、年内賀三切、外道中入用役葉、披露當役葉、披露中割合等と年忌之分、施餓鬼ニ而供養ニ割合、御手形に八拾切、白米大麦三年割合之内五切。概分手傳當に八拾切之内退り之分拾五切あり、是れ共ニ概方ニ相向也、殊ニ役葉へ解入祝儀者志切半宛、施餓鬼ニも志切半宛、是斗りも七拾五切當、十七日ニ法問之後ニ而施餓鬼法事也。五則無難、十五日晩方、少々時雨

来り、十六日朝上天氣、三月晦日。雨ハなく、其故。旱水、八月十日後迄田うへ、當村、御田ニ而一番先しすげなり。五月廿八日之雨ニ而、外川田うへ故すくれり。御商分一円ならず、最上迄旱水之よし、其後時々雨下り、七月九日頃は少々豊作ニ相なり候。当刹中、無難義婦候御役之儀ハ、副寺吉祥普秀和尚、知客松岩寺天順和尚、書記真法寺水有良源寺、傳者多福院、証撰人法山寺善見和尚、六月十日、羊解見舞ニ吉祥、松岩、真法斗り見へ、其哲梅溪明和尚十一日へ東秀院移転、不巖葉道和尚迂化、照眼寺和尚園、桃雲寺和尚多宗居□□□□□□□□見舞此方ニ而□□□□□□諸事有之、且中、寺世話人、村役人へ振舞致事、其後、七月十七日、因縁血縁書四十人斗り有之。尤、戒金者田畑一斗ニ水かぶり、賀石衛門、柳助家内迄押入、土手、明神、竹のはな外ニ四処切れ、破れ、水沼、高木迄迄面、後是不作。八月廿日祭禮、大瓜、忠治、忠太郎申、喧嘩致し、一命も六ヶ敷迄連候ニ相成り、廿五日、城下ニ役人下り、龜針川求馬殿なり。廿八日迄懸り、廿七日。大雨ニ而廿

来り、十六日朝上天氣、三月晦日。雨ハなく、其故。旱水、八月十日後迄田うへ、當村、御田ニ而一番先しすげなり。五月廿八日之雨ニ而、外川田うへ故すくれり。御商分一円ならず、最上迄旱水之よし、其後時々雨下り、七月九日頃は少々豊作ニ相なり候。当刹中、無難義婦候御役之儀ハ、副寺吉祥普秀和尚、知客松岩寺天順和尚、書記真法寺水有良源寺、傳者多福院、証撰人法山寺善見和尚、六月十日、羊解見舞ニ吉祥、松岩、真法斗り見へ、其哲梅溪明和尚十一日へ東秀院移転、不巖葉道和尚迂化、照眼寺和尚園、桃雲寺和尚多宗居□□□□□□□□見舞此方ニ而□□□□□□諸事有之、且中、寺世話人、村役人へ振舞致事、其後、七月十七日、因縁血縁書四十人斗り有之。尤、戒金者田畑一斗ニ水かぶり、賀石衛門、柳助家内迄押入、土手、明神、竹のはな外ニ四処切れ、破れ、水沼、高木迄迄面、後是不作。八月廿日祭禮、大瓜、忠治、忠太郎申、喧嘩致し、一命も六ヶ敷迄連候ニ相成り、廿五日、城下ニ役人下り、龜針川求馬殿なり。廿八日迄懸り、廿七日。大雨ニ而廿

八日洪水ニ相成り、竹の葉土手
破れ、村中大難澆。米壺外百文
ニて之米四百文、手形壺切ニ付
五舛五合、半凶作ニ候故ニ、国
中米ニ上船無之、酒屋江一宿壺
本ニ相成り、牡鹿郡中ニ武軒
相成候。四月一日、親寿院ニ大
乗かぐらあり、其後立候塔婆、
七月たをれ、其後、同月廿八日
大洪水を、又以立候ニ、八月又た
をれ、同廿九日又大洪水なり。
其後、観音祭禮候。

大瓜村忠太郎と申者、喧嘩致し
合手ニハ、石巻赤物之金五郎定
治と申也。寺ニ役人宿候。お
役人は、沼津兼軒肝入善七、内
原組頭武右衛門、善左衛門、
日影源兵衛、日向甚右衛門、幸
右衛門、半吉郎兵衛、其年入
用、翌年ニ而も不極極寺斗大い
た。

弘化三年季

元日十九日迄上天気。廿日晩
雪降り、式尺余有之、其後二日
迄時々之大風、四月十七日卅三
観音帳、郡中立札をたづ、赤
飯、援侍、手傳等ハ童子共、老
治、岡次、平次、長之介、弁藏、
三之丞、伊三郎、助七郎、貞次
郎、忠藏、善藏、甚作、繁治、
兵藏、善之助、文太夫、世話人
庄左衛門、清兵衛、吉郎太、与
三郎、村中ハ志シ、庄太郎、喜
三郎、吉郎太廻り、日向ニ而嘉

右衛門、兵三郎外は一切志な
し。後ニ而甚右衛門□□□四
月三日ハ砲壇宣敷事ニ而五月田
うへ、十八日ハ始り、尤、閏五
月□□六月五日迄□□□宣敷候。
六月十五日七ツツ大雨ニ相成り、
廿三日日待ニ少々天気、稲等も
四五日ニ種入候。田うへも五月
中ニ相付、石巻ニ而六月下
旬ハ七舛五合ニ相成り、其迄五
舛五合ニ候。七月十日かり、十
日ニ而萬福豊作ニ候。い年、江
戸ハ唐船付き、米、水焼木、
此度米五百俵ニ而相帰り、当国
ニも唐船相見ヘニ付、蒲谷殿ハ
八月二日ニ名代役人、海通一見
有之候。無難、城下役人多相替
り。

十月廿二日、大瓜ニ而舟渡□不
□嫁家立つぶれニ相成り、豊作
ニ候得共、金銭一圓不通ニ候。
村肝入ハ舛左衛門ニ而、取立藏
敷故、寺ニ余候方も無之、致而
難澆之寺ニ候。城下馬屋やけ、
□□公母君下りニ付、新造作。

弘化四年下季

四月下旬ハ森雨、五月少々干天、
田植後ニ干霖相定仕候。六月十
七日之夜大雨風、渡波、石巻、
大痛矣、大般数艘吹上、人家諸
道具迄大痛、三月中旬勿、信州
善光寺大痛、人家不知数、二十
十里外之大痛も、其節近村共、

三月ハ芝居流□高木始り、真野
大瓜、水沼、沼津江相移り、若
者色々日作、祭り有之、芝居等
也。此月十七日海通大風ニ而、
浜通人家大痛、外満作。
米者九舛ノ直段、十二月廿五日
大雷ニ而雨、終而雹尺寸雪、
霖ノ翌年迄有之。寒ハ大晦ニ開
き候。

弘化五年戊申年

從五月嘉

永元年改二月廿四日ハ客殿屋根
替、四月二日入仏供養也。申之
凶藏ニ而且中四軒ニ相成り、
窓軒ニ付置五駄、繩式百五十ひ
ろ、白米五舛四百之形手形之砌ニ
候間、式切宛、人足者三百五十
人、其割ニ而半高之人用当り故、
且中頼ニ而門中之杉式本、私木
ニ致候。尤、寺世話人者庄右衛
門、与三郎、庄三郎、吉郎太ニ
候。村肝入者幸し甚右衛門、吉
組頭源兵衛、幸右衛門、吉郎兵
衛、嘉右衛門、右且中之人ニ候
内、角別、元右衛門骨折候。や
弥葺ハ、沼津久之丞、新左衛門、
少々惣之丞手傳、葺貫者七拾切
ニ候。大工共十五人相懸り弘ニ
木引拾人、皆之式百五十候弘ニ
候。皆之諸勘定、百八十枚
相廻り候。為後日、書印置候。
長谷寺板碑 (A) 古記録にみられる長

には古碑として総数四十二基が記録され
ており、その中、長谷寺境内として、九
基が記録されている。しかし、長谷寺所
蔵の真野村風土記(写本)には古碑総数
を八十三基と記しているが、五基のみが年
代、大きさ等を記録されているだけで、
八十三基の中から長谷寺境内にある板碑
の実態を知ることができない。また、両
者の古碑の記録が正しいかは判定しにく
い状態である。

さらに、風土記書院書出の牡鹿郡陸方
真野村吉部山長谷寺の書出には、古碑拾
五、右年月等委細之義ハ御村書出江御書
上仕候事」と記されている。また、福井
町史古碑の部には、真野村の板碑総数と
して三十八基をあげているが、長谷寺所
存のものとしては嘉元二年を最古にして
八基をあげているにすぎない。したがっ
て、古くから長谷寺境内にあった板碑は
若干の移動を考慮するとしても十五基前
後であったと考えてもよさそうである。
今回の調査で確認された長谷寺境内の
板碑の総数は、断碑も含めて八十基であ
った。このことは明らかに長谷寺周辺の
地域から移動してきているものが多数あ
ることと推測される。

もともと新しい田福村真野地区の板
碑が集積されているものとして、宮城県
史跡金石類がある。その中で、福井村日
向の板碑として集積されている三十三基
のうち、二十四基が今回の長谷寺総合調
査で確認された七十八基の中にもふくま
れており、今回の調査は、断碑のみならず
ころなく調査している。その中で、紀年銘

長谷寺境内の板碑については高橋寛孝
氏所蔵「真野村風土記御用書出(写本)」

のある板碑は三十九基と、ちょうど半数を占めている。宮城県史にも集録されている板碑は紀年銘のあるもののみを集録しているとするが、宮城県史所収の福井村日向地区の板碑で今回の調査でタイプしている二十四基という数は、宮城県史発刊当時にはすでに長谷寺境内に存在したものであり、他の十五基は他からの移動と類推することが出来る。

長谷寺板碑群七十九基のうち、ほぼ原位置を保っていると思われるものは大巻黒石段の登り口左に立つNo.77、石段を登り切った仁王門の前面に立つNo.66、さらには、仁王門の南面に立つNo.左側に立つNo.69、そして大巻黒石段の石段脇にあるNo.70と74と、現在の庫裡の前にあるNo.75、山門を抜けた坂道左側に立つNo.76の十二基である。しかし、これとてもNo.69、76の二基をのぞいて移動されたと思われる痕跡があるので、注意を要する。したがって、長谷寺境内の位置を動かさなかった板碑をさぐる作業は、以上あげた文獻の中から紀年銘のある板碑を一つ一つ時代区分と確認する必要がある。

②時代区分と確認された状況

今回の調査で確認された長谷寺板碑群の総数は断簡も含めて七十九基であった。その中で、長谷寺の位置を動かさなかった板碑は十五基内外と推定されるので、時代区分別の板碑数をあげることはあまり意味のある作業とは思われないが、長谷寺の板碑と限定しないで、田真野村の内状況を考慮する資料とすれば、あながち無

意味なこととも思われないので、一応、表(1)にまとめておくことにした。

表(1)

時代	造立年代	数
鎌倉	建治一正中2年2月	6
南北朝	延元2年8月一10月 明德元年10月	13
室町	応永8年一天文2年	21
	計	40

これらの数からは直接的に何かを引き出すことは困難なことであるが、こまかく内容を検討すると、次の三点は確実に推論することが出来る。

①鎌倉時代に造立された板碑は南北朝

応永以降の室町時代に造立された板碑よりも比較的大型で、厚さもあり感じがある。これは石巻地区の板碑は時代が下るにしたがって小型化してくるといふ従来の観察結果と一致する。

②石巻地方における南朝年号は奥国二年

の三迫の戦で南朝勢力が全面的に後退してからはまったく表われないこと、例外がないといわなければならない。北朝年号に転換しているという従来の調査結果を裏づけることになった。

③室町時代に入ると、板碑が卒塔婆である

とされることを実証できるのかのように、十三仏信仰における忌日と本地仏との関係さらには偶までもセツトになつて造立されているようである。し

たがって応永年代以降の室町時代に造立された板碑であれば、たとえNo.1のようになり板碑が観音及び、何は請観音経であれば、これは百ヶ日の塔婆供養であると考へてもよいようである。すはわち、応永年間以降における一尊種子は、年忌供養の種子に通じるようである。このことから一尊種子を確認することによって、年忌供養の回忌を推定できるのではないか。

現代の塔婆供養の種子は宗派にかかわることなくとも統一していることは一つの不思議というわけではない。このようにして統一された理由はどこにあるのか今後の課題であらう。

十三仏信仰における忌日と本地仏(種子)との関係は次のようになつていて、

- 初七日 不動尊
- 二七日 釈迦尊
- 三七日 釈迦尊
- 四七日 普賢尊
- 五七日 地藏尊
- 六七日 弥勒尊
- 七七日 薬師尊
- 百ヶ日 観音尊
- 一年 勢至尊
- 三年 弥勒尊
- 七年 阿闍梨尊
- 十三年 大日如来尊
- 三十二年 虚空蔵尊

以上の忌日と本地仏との関係が明確に表われている板碑は、南北朝時代の明德元年十月(No.9)からはじまって室町時代のものは例外なく、忌日と本地

仏と一致する。

このことは若を簡単に阿弥陀信仰とし、単に入を注意を要する板碑の解釈の仕方は注意を要すると思つた。したがって、文化財だよりNo.13において、大瓜地区における板碑の時代区分による種子の変化と供養内容の記述において、室町時代に入ると種子が多様化し、供養の内容も個人の日忌供養がはっきりした姿で表われるとしたことは、前述のように、忌日と本地仏との関係という形で観察されるべきものであり、今回の調査から忌日と本地仏との関係については一層内容が深められることになつた。

(C)長谷寺板碑群において確認された傷は次のとおりである。時代の古い順に列記することにする。

- ①諸行無常 是正滅法
- 生滅々已 寂滅為樂
- 涅槃経
- (No.28) 延元二年八月
- ②十方仏土中 唯一如来法
- 無二亦無三 除仏方便説
- (No.25) 康永三年十月
- ③諸仏念衆生 衆正不念仏
- 父母不念子 子不念父母
- 大分不明
- (大分県西国東郡の梅遊寺板碑にもみえるという)

(27) 貞和五年十一月

④十方三世仏 一切諸菩薩

八萬諸聖教

皆足河外陀

一奉朝土門吉徳の軌

文と伝え。

(No.36 貞治三年七月)

⑤若人求仏息 通達菩提心

父母所生身 速証大覺位

一菩提心論

(No.73 嘉慶二年)

⑥毎日辰朝入諸定 入諸地獄令離苦

無仏世界度衆生 今世後世能引導

一延命地獄經

(No.15 応永八年)

⑦種子はえ、偈は延命地獄社、忌

日は五七日と十三日、信仰の忌日

と本地仏が一致する上、偈もそ

れなりに関連性のあるものとな

っている。この組合せは、No.34

永十八年の碑にもみられる。法

名はそれぞれ妙成神尼、妙秀神

尼である。

⑧東生若聞名 離苦得解脱

感遊載地獄 大悲代受苦

一諸観音社・観音の大

慈大悲を願うに、偈

(No.1 応永十二年)

⑨一念弥陀仏 即滅無量罪

一出典不明であるが、

現受無比業

後生活浄土

と続くという。

(24) 応永二十九年

四月、No.35 応永二十

九年二月の碑にみ

える。

一國護蓮

一觀見法界

一草木国土

一悉皆成仏

一出典不明

D) その他、長谷寺板碑群について特記

すべし。

①No.32 貞和二年五月の種子は不動明王で、

長谷寺板碑群の中で唯一のものである

が、その彫り方は極端に浅いものであ

り、同時代のもものと比較してみると完

成品ではないのではないかという感じ

をいだかせる。

②No.25 康永三年十月の碑は偈を区画線で

かこんである。

③No.2 日の碑はともに応安二年二月二

十八日の建立であり、前者は逆修善根、

後者は三十三年忌、先施悲儀とある。

この両碑は建立者を考えた場合、何ら

かの関連性があるのだろうか。

④No.15 応永八年碑は妙成神尼五七日忌の

碑であるが、No.37の年代不明の碑は種

子が勢至であり、法名が妙成神尼とあ

るので、これは妙成神尼の一週忌供養

碑と判定できるであろう。

⑤No.24 応永二十九年四月十六日碑、No.35

応永三十九年二月十八日碑は種子はと

もにキリク(外陀)の異体字であり、
偈は同じ、忌日を大符忌と削している
ところから、この二基は同一人物の造
立と考えられる。大符忌という忌日は
ないので、これは碑の内容からして、
大符忌のことであろう。

⑥No.64 享永六年碑及びNo.16の碑の種子は
勢多伽童子である。これは石巻地区に
おいては初見である。

D) 保存について

長谷寺板碑については、大部分が山門
前に固定されているので、移動される心
配はないが、仁王門附近、長谷堂裏、本
堂の碑はできれば現在地に固定保存をは
かることがのぞましい。



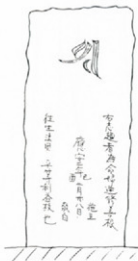
▲長谷寺板碑群

No.3



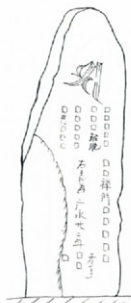
高さ：47cm 幅：23cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.2



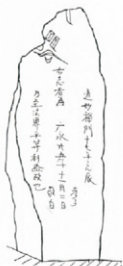
高さ：60cm 幅：24cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.1



高さ：85cm 幅：27cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.6



高さ：73cm 幅：24cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.5



高さ：77cm 幅：30cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.4



高さ：50cm 幅：30cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.9



高さ：65cm 幅：30cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.8



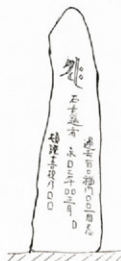
高さ：64cm 幅：35cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.7



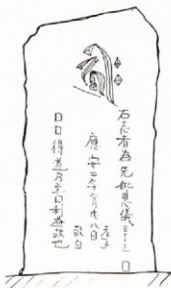
高さ：63cm 幅：24cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.12



高さ：100cm 幅：25cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.11



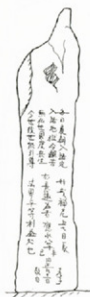
高さ：56cm 幅：26cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.10



高さ：84cm 幅：30cm
厚さ：3cm 粘板岩

No.15



高さ：120cm 幅：25cm
厚さ：15cm 粘板岩

No.14



高さ：75cm 幅：24cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.13



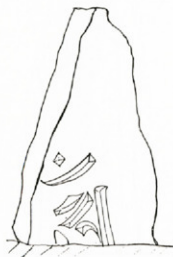
高さ：47cm 幅：10cm
厚さ：13cm 粘板岩

No.18



高さ：38cm 幅：20cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.17



高さ：40cm 幅：21cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.16



高さ：60cm 幅：17cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.21



高さ：37cm 幅：20cm
厚さ：4cm

No.20



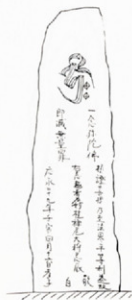
高さ：40cm 幅：23cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.19



高さ：40cm 幅：22cm
厚さ：4cm 粘板岩

No.24



高さ：94cm 幅：28cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.23



高さ：30cm 幅：12cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.22



高さ：44cm 幅：20cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.27



高さ：90cm 幅：32cm
厚さ：12cm 粘板岩

No.26



高さ：110cm 幅：34cm
厚さ：17cm 粘板岩

No.25



高さ：102cm 幅：33cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.30



高さ：85cm 幅：38cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.29



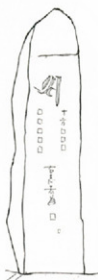
高さ：90cm 幅：26cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.28



高さ：80cm 幅：29cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.33



高さ：90cm 幅：17cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.32



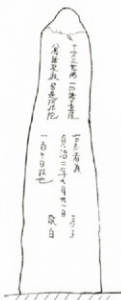
高さ：95cm 幅：35cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.31



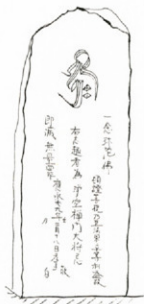
高さ：96cm 幅：33cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.36



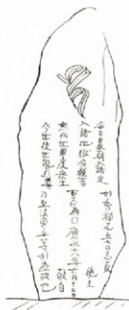
高さ：100cm 幅：26cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.35



高さ：87cm 幅：31cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.34



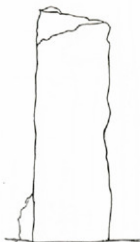
高さ：87cm 幅：27cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.39



高さ：76cm 幅：14cm
厚さ：15cm 粘板岩

No.38



高さ：91cm 幅：30cm
厚さ：12cm 粘板岩

No.37



高さ：80cm 幅：28cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.42



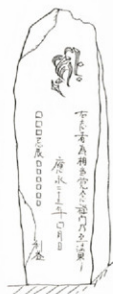
高さ：76cm 幅：27cm(22cm)
厚さ：5cm 粘板岩

No.41



高さ：90cm 幅：44cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.40



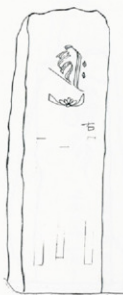
高さ：84cm 幅：23cm(20cm)
厚さ：15cm 粘板岩

No.45



高さ：150cm 幅：50cm
厚さ：13cm 粘板岩

No.44



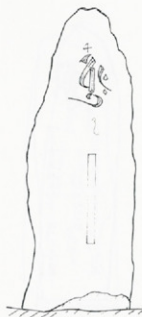
高さ：166cm 幅：45cm
厚さ：20cm 粘板岩

No.43



高さ：44cm 幅：13cm
厚さ：3cm 粘板岩

No.48



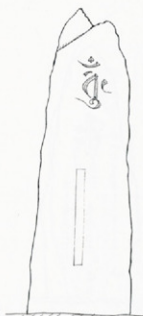
高さ：154cm 幅：50cm
厚さ：12cm 粘板岩

No.47



高さ：170cm 幅：50cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.46



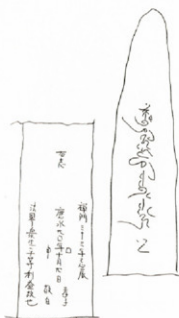
高さ：180cm 幅：60cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.51



高さ：120cm 幅：45cm
厚さ：15cm 粘板岩

No.50



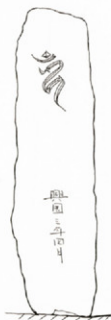
高さ：260cm 幅：20cm
厚さ：14cm 粘板岩

No.49



高さ：130cm 幅：46cm
厚さ：13cm 粘板岩

No.54



高さ：108cm 幅：26cm
厚さ：15cm 粘板岩

No.53



高さ：130cm 幅：44cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.52



高さ：104cm 幅：40cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.57



高さ：35cm 幅：27cm
厚さ：5cm 粘板岩

No.56



高さ：100cm 幅：40cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.55



高さ：130cm 幅：22cm
厚さ：15cm 粘板岩

No.60



高さ：84cm 幅：22cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.59



高さ：70cm 幅：31cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.58



高さ：90cm 幅：22cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.63



高さ：25cm 幅：15cm
厚さ：3cm 粘板岩

No.62



高さ：30cm 幅：15cm
厚さ：4cm 粘板岩

No.61



高さ：60cm 幅：32cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.66



高さ：123cm 幅：30cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.65



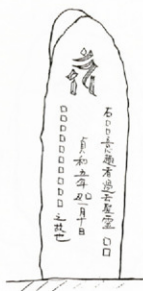
高さ：24cm 幅：20cm
厚さ：4cm 粘板岩

No.64



高さ：165cm 幅：20cm
厚さ：22cm 粘板岩

No.69



高さ：110cm 幅：30cm
厚さ：12cm 粘板岩

No.68



高さ：120cm 幅：20cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.67



高さ：110cm 幅：27cm
厚さ：14cm 粘板岩

No.72



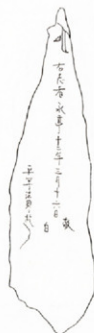
高さ：110cm 幅：20cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.71



高さ：65cm 幅：24cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.70



高さ：85cm 幅：23cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.75



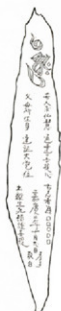
高さ：84cm 幅：18cm
厚さ：7cm 粘板岩

No.74



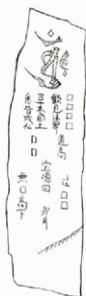
高さ：72cm 幅：10cm
厚さ：8cm 粘板岩

No.73



高さ：108cm 幅：16cm
厚さ：10cm 粘板岩

No.79



高さ：88cm 幅：23cm
厚さ：13cm 粘板岩

No.78



高さ：76cm 幅：25cm
厚さ：6cm 粘板岩

No.77



高さ：220cm 幅：70cm
厚さ：20cm 粘板岩

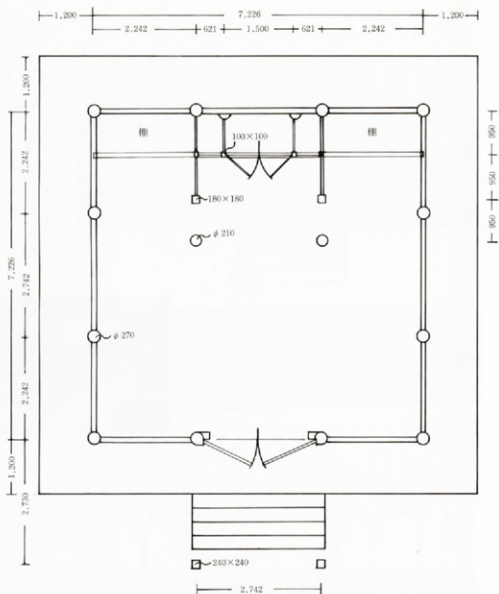
No.76



高さ：170cm 幅：40cm
厚さ：16cm 粘板岩

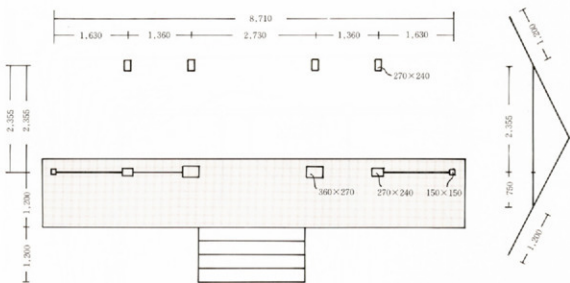
長谷寺境内測量図 昭和四十年四月



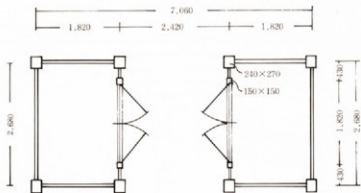


◀ 大慈闍
長谷堂

真野萱原長谷寺観音堂平面図



真野萱原長谷寺山門平面図



真野萱原長谷寺仁王門平面図



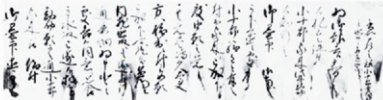
毛利コレクション所蔵文書

伊達家文書(二)

石巻市文化財保護委員 石垣 宏

前号に引き続き、毛利コレクション所蔵「伊達家文書」を紹介いたします。

ここに紹介する文書は、いずれも書状で、直接石巻地方に関連ある史料文書ではありませんが、近世仙台藩の研究に重要な史料です。



59 尚左之衛門小十郎方へ
主水江坂相返由致 欠

為御館去。十一日之

御札合許見 欠

小十郎家米柴助助

御知行之

御墨印、御当代

被下置候處、小

十郎給主と有之

付、家米ニ被成下

度由願之、寛 欠

其元貴鳴久太夫

方へ指出候付而知願

被成下可然旨、監物殿

内藏丞殿へも逐相談候

通、委細為申登候

處、各御同意。心負

主水殿被逐御披露、

助助願之通小十郎

家米ニ被仰付、

御墨印直可 欠



60 御札合許見候氣 欠

丹波病死跡職知行

高之通、無御相違同子

正右衛門。被下置段被仰渡

候處、難有仕合奉存候、

其身罷登御札可申上

處、病氣ニ付、以飛脚御

祝儀差上候由逐披露、

正右衛門所へ御別紙申達候間、

亦此旨可被相達候恐惶謹言

吉内造酒助

八月十八日

吉内志摩

柴田外記様

花押



三月十八日

柴田中務

茂庭主水様

和田半之助様

花押

旨佐藤作右門を以被

御披露候、御墨印

下書相調候首尾可

申由、得其意存、

仍助助書一通御

藏方へ指出、

御墨印并御本

紙之写三通被相返

受取申候恐惶謹言

吉内志摩

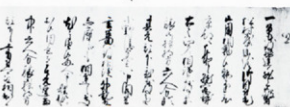
三月十八日

柴田中務

茂庭主水様

和田半之助様

花押



61

一筆致啓達候、然り候得者、

松村茂十郎儀、御目付家

御用(相調)候、就又為楮

京御(相調)候、就又為楮

古之、江戸ニ相詰申度候、

旅御扶持方六人分於

其元被下置度由、

小野清太夫を以申候候付、

女番致相談、外記殿、

志摩へも相達候、

尤之由御兩人御申候、貴様

於御同意、其元逗留

申六人分旅御扶持方

被下置候付可被相出候

花押



62

御扶合披露候、同氏

丹波病死跡職、難有

御相違被下置、無

存之旨尤之事情、依之以

飛脚御祝儀指上之候、

逐披露候之氣、一段之

仕合候、恐惶謹言

吉内造酒助

八月廿日

吉内志摩

齋藤正右衛門殿

花押



江國太兵衛守國氏太郎助義
去年も國司青森市街門
方江師弟之契約の仕
經下候、彈唯々積古
仕、年頭ニも候矣、於江戸
旅御扶持方拾人分被下、
為積古之為相談申
度由、親太兵衛頼之
趣、小野清太夫を以
申御候付由、玄蕃相談之上、
外記殿・志摩へも逐
相談候成、是又尤之由
被申候、因是右太郎助
今度罷登候間、其元
逗留中旅御扶持方
拾人分被下候書付
被相出御尤候、為其
如此御座候玄蕃殿在所
御申候間指御一判弁而
申度候、恐惶謹言

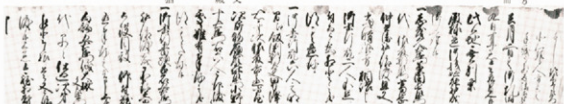
正月廿二日
茂庭主水様
(花押)



去月廿二日之御札令
拜見候、然者松平衛門佐殿
御座矣、山口攝右衛門与申仁右
繪谷六左衛門所へ手紙參候ニ而
手紙被指遣候、猶又
今度右衛門佐殿御馬買
口善左衛門、松本六之助与
申者商人被相下候、先以
南部へ罷通経届ニ尚地
御目町ニ而、華樓御札馬
之内一兩度も所重
申渡由、六左衛門方へ之手紙
之趣外記殿志摩殿へ
申達候得者、弾札馬之内
被遣ニ而可有之由、御申候矣、
御馬方兼へ其段申渡候、
勿論跡々も御札馬御
所重之方有之被遣由ニ候矣、
其間一首儀可仕出申渡候、
左様ハ之候得ハ可被成候、且又
安部吉三様殿ニ而も、右衛門佐殿
馬買參候時分、馬数も為
見被様御馬ニ取候様ニ由
一兩定も遣候様ニ被仰候、猶
斯様取之時候恐惶謹言

正月十一日
津田玄蕃
(花印)

茂庭主水様

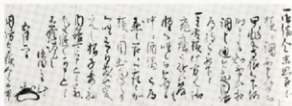


去月二日之御札同
九日来着令拜見候、
此御地無御別來
殿様御機謙能成
御座候
志茂久右衛門、菊田長左衛門
代ニ佐藤新左衛門・高岡
仲兵衛被仰渡、且又
當時此方ニ相詰申
御奉行入一入不足ニ
付由、□為相談之由
得其意存候

御步行衆六人之明
間江殿源新太夫、男澤
右半次、佐藤善之次、守屋
次郎助、濱岸善左衛門、小野
十右衛門、右六人被仰渡候
成、雖有奉存之由
得其意存候

御步行衆六人之明
間江殿源新太夫、男澤
右半次、佐藤善之次、守屋
次郎助、濱岸善左衛門、小野
十右衛門、右六人被仰渡候
成、雖有奉存之由
得其意存候

御御候儀不存寄
御役目被仰渡、雖
有奉存之旨申上候、
代ニ早々仕渡次第
無論五右衛門儀大槻文左衛門
代ニ早々仕渡次第
罷登候様ニ是又被仰
渡候上着今程相勢
申候



一、御借金未思召候様ニ調不申候付而、甲斐守様御下何時とも知不申候、相調申候通今度内膳為持被罷下候。主殿様此方にて、御出番被遊候、如何ニ、輕御呼候而令明候中、二酒湯被為懸候苦ニ御座候、加御座有間敷候、最元之様子委細内膳可被申上候、萬慶退々可申上候、恐惶謹言

須田主計

花押



五月二日 須田主計
 国防守様 人も御中
 知行目録
 一、拾忠買六百文
 二、拾忠買六百文
 三、拾八買五百九拾九文
 都合三拾買百九拾九文
 御墨印之圖割渡候
 百姓屋敷高名付委細水置有之者也仍如件
 内馬場藏人
 寛文元年十一月十六日

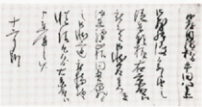
花押



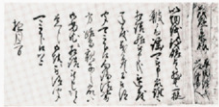
木村久馬 (花押)
 和田織部 (花押)
 嶋田治右衛門 (花押)
 奥山大学 (花押)
 齋藤正右衛門殿

④(茂庭主水様 平田健殿)
 尚々御馬本上之儀也
 能々御代之時分被御合儀様ニ石京殿(被御候以上昨日之御手紙石京殿江申達候、毎年御老中様江其元様御馬被遣候儀、々々其春中御上馬相濟候而、よわ御用御達被成候、御扣書重而御代之時分被指越候様ニ御申候、勿論御同役中被御合儀様ニ御申候以上

極月廿一日



④(茂庭主水様 平田健殿)
 北郷単人
 以紙致書上候、然者一紙敷ニ而可被申衆議ニ相話居被申候哉、速度承度義御座候間、被仰聞可被下候、勿論清太郎方路局親子之衆ハ、御当地ニ相話被申候加と覺申候、御帳ニ被仰聞可被下候以上
 十二月朔日



④(茂庭主水様 平田健殿)
 北郷単人
 以紙致書上候、然者一紙敷ニ而可被申衆議ニ相話居被申候哉、速度承度義御座候間、被仰聞可被下候、勿論清太郎方路局親子之衆ハ、御当地ニ相話被申候加と覺申候、御帳ニ被仰聞可被下候以上
 極月二日

此日者終日にて可為
 御因存候、仍向御目付衆
 尾山御萬年、松庭金左衛門
 差遣候書状、只今来着
 申候間、為御被見道候
 已上
 三月廿一日 監物
 主木様

(30) 今日者終日にて可為
 御因存候、仍向御目付衆
 尾山御萬年、松庭金左衛門
 差遣候書状、只今来着
 申候間、為御被見道候
 已上
 三月廿一日 監物
 主木様

右長成御馬御座候由、
 左近様被成御取度由
 付而被遣候処、御機ニ
 入不申被相返候間、只野
 栗毛と申、御馬御馬屋
 一番通之御馬ニ御座候、
 是迄可被道之由御聞届候、
 兵部様へ被仰上、右京殿
 御同意被思召候ハ、被道
 可然由御申候以上
 四月廿一日
 (茂姫主木様 平田殿殿、
 北郷半人)

(31) 右長成御馬御座候由、
 左近様被成御取度由
 付而被遣候処、御機ニ
 入不申被相返候間、只野
 栗毛と申、御馬御馬屋
 一番通之御馬ニ御座候、
 是迄可被道之由御聞届候、
 兵部様へ被仰上、右京殿
 御同意被思召候ハ、被道
 可然由御申候以上
 四月廿一日
 (茂姫主木様 平田殿殿、
 北郷半人)

御切紙拜見先通
 御取次へ、御目心
 仰付候「取共」
 下置候「子相渡」
 申様ニ首尾可仕置、
 相心得奉存候、御言
 之候付、差遣御用
 計相調申様ニ申付、
 延引仕候様、早々
 相渡申様ニ可申付候
 以上
 卯月六日

(32) (断簡)
 御切紙拜見先通
 御取次へ、御目心
 仰付候「取共」
 下置候「子相渡」
 申様ニ首尾可仕置、
 相心得奉存候、御言
 之候付、差遣御用
 計相調申様ニ申付、
 延引仕候様、早々
 相渡申様ニ可申付候
 以上
 卯月六日

被道可然由、
 兵部様、右京殿被仰
 付候由、被仰越候品々、
 貴様一円御存知不被成候由、
 右京殿手前之留ニも
 無御座候間、其元能々
 御聞可被成候然と知レ
 不申候ハ、津田左喜殿、
 古内造酒助殿江御聞
 被成候ハ、知レ可申候間、
 御尋被成候様ニと御申候、
 「円貴様」と具外之
 (欠)

(33) (断簡)
 明明日御登城之儀、
 隠岐守殿へ御相調申候
 處ニ、此中板倉内積候之
 御返答ニ、御登城之儀、
 追仰御左太可被成由ニ、
 今日中御左太無之候ハ、
 御出仕先以御隠引、
 被仰越候、午去御申
 次衆之内へ、弾閉合可
 申候間、若御登城可
 然旨申来候ハ、追而
 各迄御左太可申上候、
 猶又美濃守殿、明日日先へ
 御覺足ニ付而、御言信之
 儀當分ハ御遠慮可
 然候

其元へ御見懸有之候共
 御懸志之御衆ハ各別
 右林之衆ハ、此節ニ而
 少し御気重し候と御
 挨拶被成、御对面不被成候
 様ニ可然懸隠岐殿仰越候、
 此段御了簡无ニ申し候
 三月廿九日

(33) 明明日御登城之儀、
 隠岐守殿へ御相調申候
 處ニ、此中板倉内積候之
 御返答ニ、御登城之儀、
 追仰御左太可被成由ニ、
 今日中御左太無之候ハ、
 御出仕先以御隠引、
 被仰越候、午去御申
 次衆之内へ、弾閉合可
 申候間、若御登城可
 然旨申来候ハ、追而
 各迄御左太可申上候、
 猶又美濃守殿、明日日先へ
 御覺足ニ付而、御言信之
 儀當分ハ御遠慮可
 然候

文化財めぐり

大崎地方
東和町米川地区
の文化財を訪ねて

「県内の主要な文化財を見学し、文化財に対する理解と認識を深め、文化財保護思想の普及と、保護行政の推進を図る」という目的で、毎年開催している「文化財めぐり」を、今年度は次の二か所で開催しました。

▼10月28日(日)、大崎地方の史跡を訪ねて、小牛田・吉川・中新田方面の史跡・文化財を市のマイクロバスを利用して実施。講師＝三宅宗議先生、参加＝



23名 主なコース＝赤井遺跡・京銭塚古墳(素山貝塚)・山前遺跡・瑞川寺山門



青塚古墳・安国寺・薬切谷廃寺・城生跡・御山古墳
▼10月9日(日)、隠れキリシタン遺跡と馬籠を訪ねて。昨年度(3月25日)に開催したもので、大好評を得、再度開催希望が多かったために開催したものです。今回も申込み受け付けと同時に定員に達するほどの人気で、ぜひもう一度開催してほしいとの声が出ています。講師＝酒倉良之先生(講話・東和町の遺跡)・三宅宗議先生 参加＝24名

昭和59年度文化財講座
“中世牡鹿湊と石巻城”

日和山会館を会場に45名が受講

私たちの祖先が残してくれた貴重な文化遺産を正しく理解し、保護・保存をしていくのは、いま生きる私たちの務めではないでしょうか。

その文化遺産の価値や重要性を正しく

理解していただくための講座を今年度は九月七日(金)午後七時から日和山会館を会場に、「中世牡鹿湊と石巻城」と題し、石巻城跡発掘調査を担当した中村光

一さんを講師に開催しました。



大切な文化財を 後世に伝えよう

現在、石巻市には、国指定文化財二件、県指定文化財二件、市指定文化財十一件のほか、数多くの文化財があります。

これらのものはすべて、先人が遺してくれた大切な遺産であり、今生きる私たちの手で後世に伝えなくてはならないものです。

石巻市所在指定文化財

国指定文化財（※印時代）

●（重要文化財）岩版Ⅰ昭36・2・1指定

所有者・毛利伸氏（住吉町一）※縄文

●（史跡）沼津貝塚Ⅰ昭47・10・21指定

所在地・沼津字出外※縄文・弥生

県指定文化財

●社説法印神楽Ⅰ昭46・3・2指定 代表者・桜谷守雄氏（湊字牧山）

●仁斗田貝塚Ⅰ昭50・4・30指定 所在地

●田代字仁斗田※縄文

市指定文化財

●多福院板神群Ⅰ昭50・6・1指定 所有者

者及び所在・三輪宗源氏（吉野町一）※中世

●平塚ツナ家文書Ⅰ第一次昭51・6・1指定 第二次昭53・4・1指定 所有者・平塚ツナ氏（田代字仁斗田）※近世

●鳥居神社奉納絵馬（奥州石ノ巻図）Ⅰ昭53・8・1指定 所有者・桜谷博氏（羽黒町一）※近世

●田石巻ハリストス正教会教会堂Ⅰ昭55



▲鳥居神社奉納絵馬(部分)



▲旧石巻ハリストス正教会 教会堂



▲西宮櫓

第31回 文化財防火デー

“牧山零羊崎神社で火災訓練実施”

わが国には、建造物や美術工芸品などの優れた文化財が数多くあります。しかし、わが国の文化財の多くは、木・紙・布など、火災により損傷を受けやすい材質で作られています。

1月26日が「文化財防火デー」とされたのは、昭和24年のこの日に国民的な財産であった法隆寺金堂の壁面が焼損したこと、そして、ちょうど火災の多いシーズンに当たっています。

この日を機会に、二度と法隆寺金堂壁面の悲劇を繰り返さないという決意を新たにしました。



▶ 牧山零羊崎神社での火災訓練

12・20指定 所有者及び所在・石巻市

（中瀬）※近世

●（彫刻）潮音Ⅰ昭55・12・20指定 所有者

及び所在・石巻市、石巻市図書館※現代

●イチョウ（吉祥寺）二株Ⅰ昭55・12・20指定 所有者及び所在・一方井文章氏

（高木寺寺前）

●イチョウ（龍泉院）Ⅰ昭55・12・20指定

所有者及び所在・皇孝夫氏（永沼字天

似）

●高西橋Ⅰ昭56・5・18指定 所有者・坊

沢敏和（龍淵院）（大狐字柳橋）

●（彫刻）黒潮貝Ⅰ昭56・5・18指定

所有者及び所在・石巻魚網工業㈱、石

巻市図書館※現代

●石巻市渡波獅子風成Ⅰ昭56・12・19指定

代表者・内海幸平（幸町）

●（彫刻）漁夫像Ⅰ昭57・12・15指定 所

有者及び所在・石巻市、石巻市図書館

※現代

《旧町名表示石柱設置事業》 由緒ある町名を

後世に伝える…

「合理的な住居表示を…」という目的

で、昭和37年に制定された「住居表示に関する法律」により、翌38年から全国の各都市で順次町名の変更がなされています。

新しい住居表示の特徴は、これまでの「通り」を単位とした町名ではなく、従来交流のなかつた背中合わせのアロック単位の街区方式となっています。

石巻市においても昭和40年からこの新しい住居表示を実施、現在まで11地区で町名が変更されています。

昭和40年には、「北目町・南町・湊本町・新田町・東町・御所裏」等の町名が消え、翌41年には「海門寺前、本町、仲町、裏町、横町」等が、そして42年町、後町、浜橋町」等が、そして42年には「裏面洞、清水尻、鎌倉、揚屋原、入船町、六軒町」等の町名が消えてしまいました。その他、土地区画整理事業によつて新しい町がつくられると同時に古い町名が消えてしまう例もあります。

「袋谷地」がそうです。昭和50年、この事業により「水明町」となり、昭和59年に住居表示により「水明南、水明北」となつてしまいました。

由緒ある町名を後世に伝えるということは、今生きる私たちの大切な役割ではないでしょうか。地名は民俗学と古代史を結ぶ接点であり、かけがいのない文

化遺産だといえます。

石巻市教育委員会では、今はなくなつてしまった町名を後世に伝えるため「旧町名表示石柱設置事業」を昭和56年度から行い、昭和63年度までの計画で、市内20か所に設置する予定しています。

昭和56年度設置

新田町

① 元禄二年五月十日「奥の細道」の旅で石巻を訪れた芭蕉と曾良は、日和山からの眺望を楽しみ、住吉神社に参詣後、新田町の四兵へ宅に一泊した。安永二年三月の「安永風土記書出」には家数五十二軒と記されている。

渡波本町 ② 天文年中、肥後国の浪人佐々木肥後(内海家の祖)は、奥州葛西氏の命で税田浜からここに移り、大庄屋をつとめ、渡波を開拓した。寛永十八年に本町は渡波最初の宿場となった。



▲淡本町

本町は最古の町名であることが多い。

淡本町

③ 鎌倉前期以降の淡村の領主番町氏、遠山氏の居館に近い船着き場本町は市内で最も古い宿場で、御乳場や仙台藩会所、御塩蔵があり、元禄十一年当時の本町の長さは、二町十九間、家数四十三軒、安永二年は百十五軒であった。

横町 ④ 一六九八年の「杜鹿郡万御改書上」石巻村の条に「横町、長さ三町拾貳間一約三九四尺」と記され、享和三年(一八〇三)の「杜鹿郡方大肝入の代官宛て石巻村内宿場報告書」中にも、本町、中町に次いで「横町」の名が見え

昭和57年度設置

中町

⑤ 一六三四年に津村豊妻からここに移住した信州出身の松本但馬源兼満が居住を建設以来街区が形成された中町は、一六九八年の「杜鹿郡万御改書上」石巻村の条に「中町、長さ三町三拾九間一約三九八尺」とある。江戸中期には仙台藩代官屋敷、八戸藩木蔵、登米屋敷、金屋役人の定宿などが並ぶ繁華街であった。

九軒町

⑥ 街区形成の初期に、しばらくは民家九軒しかなかったことが町名の起原という。一六九八年の「杜鹿郡万御改書上」門脇村の条に「中町、長さ三町四拾間一約二九二尺」、一七三二年前後の「石ノ巻誌図」には「九軒町」とある。同誌図に千石船数が見える川岸に一八八八年土木警察署、一九〇六年石巻技藝所、一九二一年内務省土木出張所が設置され、海上保安、水難救助、北上再改修工事などの推進にそれぞれ貢献した。



▲新田町



▲面 剣 田

立 町 ⑦ 文化十五年(二八一八)四月七日、「石巻町表畑中井向脇町城の場所屋敷二被成下、石銘立町と相唱候様御下知之事」という杜鹿郡陸方大計書あての出入司下知状によって新町名立町が誕生した。当時の幹線道路「中町」に對するタテ(縦)の町の意味という町名起源説も聞くが、明らかではない。江戸後期には天保二年(一八一三)十二月十二日の出入司下知状によって、立町の朝市場における近郷産出野菜の卸売が許可されている。

面 剣 田

⑧ (大和朝廷から派遣された征夷將軍上毛野(かみつけぬ)の田道は、蝦夷の軍に敗れて伊寺水門(いしのみなど)に戦死した。その後再び米養田道の墓をあばいた戦災の民たちのほとんどは、眼をいからして墓から現れ出した大蛇のために食い殺された」と「日本書紀」仁徳天皇五十五條に記されている。

立 町

⑨ 安永二年(一七七三)三月の「石巻村風土記書出」に「倉津沢堤(やびつさわつみ)」。当時「田用」に「高瀬高也(たかたか)百三拾四文御座候矣。当田代高より給式百五十八文不足仕候分ハ天水又は沢水を以仕付候事」と記すように、ここには周辺の水田(取積高百四十石余)灌漑用の池があり、不足分は雨水や沢水

八 ッ 沢

⑩ 安永二年(一七七三)三月の「石巻村風土記書出」に「倉津沢堤(やびつさわつみ)」。当時「田用」に「高瀬高也(たかたか)百三拾四文御座候矣。当田代高より給式百五十八文不足仕候分ハ天水又は沢水を以仕付候事」と記すように、ここには周辺の水田(取積高百四十石余)灌漑用の池があり、不足分は雨水や沢水

石巻地方の伝承によれば、その田道將軍が戦災の兵の放った毒矢を肩間に受け、倒れた地点が「面剣田」であるという。

に相ついていた。伝承によれば、昔、このあたりは湿地帯で、八ヶ所川に沢水が流れていたところから「八ッ澤」の地名が生れたという。



▲八 ッ 沢

《文化財説明板》

今年度までに
市内22か所に設置

文化財の所在の周知と愛護思想の高揚を目的に「文化財説明板」の設置を進めています。今年までに市内22か所に設置しました。

特に今年は、協同組合石巻商店会（理事長相沢力雄氏）より13基（うち8期は星野賢一邸氏作製分）の寄贈があり、これまでの分とあわせ22基になりました。

昭和50年設置

●内海橋①・中瀬・岩城屋商店前

北上川には、明治時代に入ってもしばらくの間架橋されず、住民は不便をまわめていた。内海五郎兵衛は独力で架橋工事に着手し、数々の困難を克服して、明治十五年五月に開通式を迎えた。時の宮



▲内海橋

市内22か所に設置

城県令（知事）松平正直は、五郎兵衛の功績をたたえて彼の名をとり「内海橋」と命名した。なお、石巻が市になった昭和八年、それまでの内海橋は、木橋で老朽が激しかったため、水久保にかけかえられた。

●御殿横丁①（中央一・日野屋旅館前）

この周辺に、伊勢国出身の豪商源左衛門が建設、宝永享保年間に仙台藩に献納した「御座之間」「御奉行之間」「御郡司之間」など二十三室に及ぶ壮麗な御殿屋があった。御殿屋は、歴代藩主の杜鹿半島の鹿狩り、その他の用務による石巻地方巡行の際の宿泊施設で、住民からも「御殿」とよばれ、享保末年の石巻絵図には「御殿」と注記。献納者源左衛門の子孫が御殿屋守を世襲した。この地名は石巻の近世史を知る上で重要な手がかりの一つである。

●吉田松陰の宿所跡①（中央一・日活パ

ール映画館裏）

東北遊歴の途中、吉田松陰は高永五年（一八一五）五月十六日に石巻に到着し、親友部河通高の寄寓先栗野至石衛門の案内で日和山からの眺望を楽しみ、同行の宮部熊藏と共に栗野邸に一泊した。栗野邸は現在の日活パール劇場の場所にあつたといわれ、松陰もその庭色を嘆賞した邸内の「合歡園」は、戦後に姿を消した

いる。

●牡鹿桃生町村組合公立病院跡①（門脇町一・電報電話局前）

明治六年仲町に設置された県立病院石巻分院の後身で、明治二十五年本町に工費五千六百円建てられた赤れんがの、瀟洒な外観を誇る公立病院は牡鹿桃生町村民の医療機関として、多大な貢献を果たした。後に石巻赤十字病院として活用され、日赤が譲りに建設された後は一時手術会として利用された。

●宮城電鉄駅跡①（殺町・石巻駅仙石線口前）

山口県出身の実業家山本豊次はか九名は、大正十二年十二月に宮城電道株式会社を設立し、石巻―仙台間の電車線敷設工事に着手、昭和三年十一月には全線が開通。「宮城電鉄」の名で親しまれ、沿線市町村の政治経済、教育文化の進展に多大の恩恵をもたらした。

太平洋戦争中、軍部の要請によって国が買取収用し、国鉄「仙石線」となり石巻駅は電鉄時代の建築そのまま利用されている。

●旧石巻警察署跡①（中央二・丸光石巻店前）

明治六年七月設置の巡邏屯所が石巻警察署の源流で、八月四日第三警察に改組



▲「繪園」のおもかげ

牡鹿桃生本吉三郎を管轄。

十年一月に石巻警察署と改称。庁舎を門脇村（門脇町一丁目）に設置したが、二十年三月本町大火で焼失。二十二年石巻仲町（中央二丁目）に新築移転した。明治洋風建築の庁舎である。

●石巻町役場及び議事堂・田園図書館跡①（泉町一・八ツ沢緑地内）

明治二十二年、昭和九年までの約四十五年間、石巻町役場ならびに第一次石巻市庁舎が置かれたこの敷地には、後に町立石巻実科女学校（市立女子高校の前身）、水道事務所後に図書館、石巻公民館などの公共の建造物が次々と建設された。

●「繪園」のおもかげ①（中央二・千童里入口前）

へ銀子はやっと顔を直し子供に留守を頼んで家を出たが、そこは河に近い日和山の嶺にある料亭で、四五町もある海沿いの道を車で通ふのであった。

自然主義文学の最高峰徳田秋声著「福園」の一節である。仲町(中安「丁目」)の「中大黒」抱鼓張子と近野の豪農の長男貞持との逢引きの場「アルプス温泉」(門前町「丁目」)の跡には、庭石一個のみ、中大黒の玄関と待合「春里」は昔のまま姿を残している。

●牧山(漢子牧山・社務所前)

旧北上川の東岸にある高さ二五五メートルの山です。北上山地に続く山で、中生代の古い地層からできています。市街地に近い山として自然の残されている山で、その自然といっしょに多くの文化財が保存されています。

頭上付近にモミ、ブナ、イヌブナの混生する自然林があります。林の下は一面スツクテとおわれています。このような林は石巻地方では牧山で見ることができません。太平洋側の丘陵地や低山の自然のもの姿をよく残している「日本の重要な植物群落」の一つです。このほかコナラ林や植林地などいろいろな植物群落を見ることができ、海岸植物から山地の植物まで七百種以上の植物(シタ植物以上)が生えています。

動物の種類も多く、探鳥や昆虫採集の場所として親しまれています。

頭上から山麓まで、多くの社寺、遺跡があります。それに関係のある伝説や文化財があります。

展望のきく場所が多く、石巻市周辺の海・川・田園・市街地から遠く山々までのすぐれた景観を楽しむことができます。



▲牧山

牧山地域は、県立自然公園「碗上山・万石浦」の一部として指定されています。

●巻石(住吉公園小島内)

巻石のことが最初にでてくる書物は天和二年(一六八二)に刊行された大淀三千風著「松島眺望集」です。「石巻川中に大きな岩あり、このかげ浪巴をなせり、この故にこの名あり」と書かれてあります。

元禄十一年(一六九八)の「杜夷郡方御改書上」には「川中 鳥帽子石 東西志回亭 南北三尺八寸。ただし石巻石と申し伝へ候」、享保四年(一七一九)の「奥羽観跡閑老志」には「鳥帽子石 住吉社畔華表前の湾に巨石あり、高さ六尺広さ南北三尺東西九尺、その鵜鳥石に似たり」とあり、安永二年(一七七三)の「石巻村風土記御用書出」には「当村端御住吉町住吉大明社地わきに、石巻石、石巻御座候に付き、その縁をもって村名に唱へ申し候」と書いてあります。

石巻の地名の由来についてはいろいろな説がありますが、江戸時代にはこの巻石が起源であるとする説が一般によく知られていました。鳥帽子は住吉神社の正しい名、熊石大島神社の「いびし」がなまってできたものと思われま

現在羽黒山のおもとのある海石山身福寺は正保二年(一六四五)住吉に仙台藩の米蔵が建設される前は大島神社の境内にありました。海石という山号は鳥帽子石にちなんでつけられたものです。



▲巻石

●海門寺跡(日和が丘一、海門寺公園)

好日山海門寺は仙台の人万安が藩に願いを出して、仙台大年寺の風山和尚によって開山された黄檗宗の寺です。當時藩では寺の新設を認めていなかったのですが、四代藩主綱村が黄檗宗に帰依していたので、庵寺になつて遠田郡田尻の日和山日吉寺を移すということで認められたのだそうです。万安は寺の建物

を建て、田畑六十二石あまりを寺に寄附



▲海門寺跡

しています。

「伊達治家記録」元禄十六年四月十一日のところに「門脇村二壱八十間横六十四間の寺場ヲ賜フ」とあります。

安永二年(一七七三)八月、七代重村は領内の千石船関係の遺難者の遺族を招き、海門寺で施餼金を営み、弔慰金を贈りました。それ以来、三日三晩ぶつとおしの盂蘭盆会と盆踊りは石巻地方最大の行事とされ「夜つびつての海門寺」という名でたいへん有名になりました。

明治維新で藩の直轄寺でなくなった海門寺は、明治六年(一八七五)の大災で薬師堂を除く金堂塔を焼失してしまいました。

日露戦争直後境内に招魂社と招忠碑が建てられ、大正初期からは広場で全国自転車競走大会やサーカス公演などが行われましたが、戦後四十年に彰徳館、四十年には友心館が建設されています。



▲阿弥陀峯

●阿弥陀峯(吉野町一、慈恵院入口)
慈恵院と多福院の裏山は江戸時代の絵園を見ると阿弥陀峯という名になっていました。この里になっている山の一部に「あみだ」から出たと思われる「なみた坂」という名が最近まで残っていました。
阿弥陀峯から五松山にかけて見られる自然林はケヤキ、シロダモ林で、石巻地方の海岸丘陵地の原生林のおもかげをよく保存している。日本の重要な植物群落の一つです。

高木はケヤキと常緑樹のシロダモが多く、日本では珍しいモクゲンジが誕生しています。林内にはカヤ、イヌガミ、アオキ、ヤマツバキ、オオハシロダモ、ツルマサキ、テイカカズラ、オオバノイノモトソウ、リュウノヒゲ、オオバシヤノヒゲなど常緑の植物が多くなっています。

崖の下の方ではケンボナシ、エノキ、オニグルミなど低地の樹木が混じり、土

の多いところではクヌギが混じります。上の方ではカシワが混じり岩の見えるところではイブキなどの海岸植物も見られます。
木のはとんどが落石の影響で変化しているのが認められ、この林の落石防壁保全林としてのはたらしい大きなことを物語っています。

モクゲンジの群生地としては日本で最も大きく、黄色い花が咲く七月下旬から八月にかけてみごころな景観を見せてくれます。

●高橋茶舗(中央三)

明治の初め(二八七〇年代)に建てられた市内で最も古い「蔵家造り」の建物です。火に強く、六六〇戸が焼けた明治二十九年元旦の「福清の大火」にあっても焼けることはありませんでした。

呉服店として建てられたもので後に小間物店となり、昭和二年に高橋茶園となりました。

重い建物を支えるため、粘土をニガリで固めた土地に九〇°ごとにマツのくい

を打ちこみ、基礎には大きな井内石を土台にはタリの木を使っています。また、柱は七寸角(一九・二二寸)で、ケヤキ(役柱)とスギ(管柱)とを使い分けて使っています。

間口が五間(九・三三間(五・五三)の二階建てで、五尺三寸(一・六三)の下

家が二階建てで、化粧床組がしつかりと組まれ、二階へ商品を上げおろすするハッチがみられます。階段は京風の箱段で、上りつめた所に水平に動く板戸があります。

土間と壁の境はケヤキのあがりかまちで、床には隣の板を切りとった床下換気孔がみられます。

住宅への出入口、シャッターの役目をした土戸を建てこんだみぞ、厚いぬり土の上の置屋根など、商品を火災から守る工夫をこらして建てられた店がまえのもの、の形がよく残されています。



下図記載以外の文化財説明板設置場所

- ②西三軒屋遺跡（門脇字西三軒屋60）
- ③安楽寺跡板碑群と水沼地区の中世遺跡
（小沼字寺内74-2）
- ⑤祝田浜の両墓制（渡波字祝田74）
- ⑧石川啄木の歌碑建立（荻浜字葉山）



▲高橋茶舗



《付・石巻市所在遺跡地名表・石巻市遺跡地図》

石巻市の遺跡

海・山・川と自然に恵まれた石巻市は、昔から人々の豊かな生活の舞台であり、そのあかしとして、これまでに数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が発見されております。

学問の進歩によって先人の残した貴重な遺跡の解明がなされ、往時の生活文化の復元が可能になりつつあることは、喜ばしいことでありますが、反面、急激な社会情勢の変化や経済変革に伴う地域開発等によって自然景観や歴史的環境が急変し、文化財の保存が危ぶまれております。そこで、文化財の保護・保存のためには、その所在・範囲及び性格を広く一般に周知することが必要と考え、「石巻市遺跡地図」とともに「石巻市所在遺跡地名表」を作成し、本書に収録したものです。

ここに収録した遺跡のほかにも未確認のものもあろうかと思いますが、今後も分布調査等の実施により、補足整備してまいります。

《お願い》

家屋の新築及び増改築や土地の開発計画等に当たっては、「石巻市遺跡地図」「石巻市所在遺跡地名表」を十分に活用され、事前に市教育委員会と協議・調整を行い、先人の残してくれたかけがいのない文化遺産である遺跡が、保護・保存されるよう特段のご配慮をお願いします。

石巻市所在遺跡地名表

昭和60年3月31日現在

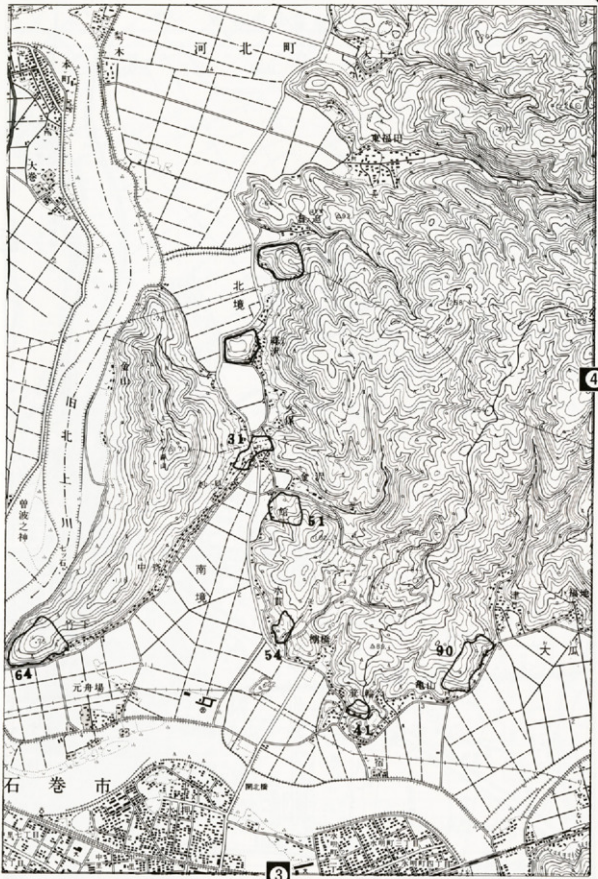
遺跡番号	遺跡名	所在地	定地	種別	時代	地目	出土品	出土品の所在地	地図
01	水鏡寺貝塚	沼原町1	丘陵麓	貝塚	縄文(後)	地内	縄文土器(土河C1A) 製塩土器、土師器		③
02	梨木畑貝塚	渡波字梨木畑	*	*	縄文(早・中・後) 弥生・古墳	畑地	縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、人骨	市教委・東北大	③
03	山下遺跡	(06に含める)							/
04	屋敷貝塚	渡波字屋敷浜	丘陵	貝塚	縄文(中・後)	山林	縄文土器、石斧、骨角器、土師器、須恵器、製塩土器	二女高 佐々木高	③
05	根岸橋遺跡	(43に含める)							/
06	清水尻遺跡	清水町1	自然堤防	包含地	古墳・平安	畑	土師器、須恵器、土師	石巻市 毛利コレクション	③
07	梅ヶ丘遺跡	(40に含める)							/
08	薄小学校遺跡	吉野町1	自然堤防	包含地	奈良	瓦	瓦	毛利コレクション	③
09	船山遺跡	八幡町2	*	*	縄文	畑	磨製石斧、土		③
10	五松山周壁	*	丘陵端	周壁	古墳(後)	山林	耳環、人骨、須恵器、直刀	市教委 梅田美代子	③
11	羽黒山遺跡	羽黒町1	丘陵中腹	包含地	平安	畑	須恵器、埴口		③

選定番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	出土品の所在地	地図	
12	明神山遺跡	引野町2	丘陵中腹	包含地	平安	宅地	須志器	石巻高①	①	
13	明神山下段塚	引野町	丘陵麓	貝塚	縄文	*	縄文土器、石片、貝類	*	①	
14	横堤遺跡	新橋町	自然堤防	包含地	縄文(晩) 奈良・平安	畑	土師器、須志器	矢本高①	①	
15	日根山神社基	日根+丘1	丘陵	塚	中世	境内			①	
16	西三軒屋遺跡	門脇字西三軒屋60、61	塚	近畿 古墳	古墳・古世	畑	土師、石製有孔円盤、土師器	毛利コレクション①	①	
17	釜西古墳群	* 釜山5	*	古墳	古墳(後)	宅地	(2基)、石製有孔円盤、土師器	橋本政助①	①	
18	志志寺跡 仁十郎基壇	旧代志字内山	丘陵前部	貝塚	縄文(前・中・後)	宅地	縄文土器(6・7・7b・8a・8b・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・330・331・332・333・334・335・336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・379・380・381・382・383・384・385・386・387・388・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631・632・633・634・635・636・637・638・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・679・680・681・682・683・684・685・686・687・688・689・690・691・692・693・694・695・696・697・698・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・709・710・711・712・713・714・715・716・717・718・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・729・730・731・732・733・734・735・736・737・738・739・740・741・742・743・744・745・746・747・748・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・779・780・781・782・783・784・785・786・787・788・789・790・791・792・793・794・795・796・797・798・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・810・811・812・813・814・815・816・817・818・819・820・821・822・823・824・825・826・827・828・829・830・831・832・833・834・835・836・837・838・839・840・841・842・843・844・845・846・847・848・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・899・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・910・911・912・913・914・915・916・917・918・919・920・921・922・923・924・925・926・927・928・929・930・931・932・933・934・935・936・937・938・939・940・941・942・943・944・945・946・947・948・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・979・980・981・982・983・984・985・986・987・988・989・990・991・992・993・994・995・996・997・998・999・1000	縄文土器(大木5・7)、石片	橋本政助①	①
19	二堂基壇遺跡	旧代志字二堂城	*	包含地	縄文(前)	山林	縄文土器(大木5・7)、石片	橋本政助①	①	
20	柳林遺跡 (45に含める)								／	
21	釜東古墳	門脇字西三軒屋60	砂塚	円墳	古墳(後)	宅地			①	
22	にふ塚貝塚	渡辺字通ノ浦、字新沼 或屋字基	*	貝塚	古墳・中世	畑・水田	土師器、須志器、古世陶磁器	赤教委⑤	⑤	
23	明神山段塚	山下町1	丘陵麓	段塚	中世	宅地	須志器	石巻高①	①	
24	五十段神社下段塚	渡辺字神明	*	貝塚	平安	畑	土師器、須志器	橋本政助①	①	
25	講林遺跡 * 字講林遺	丘陵麓	*	*	*	山林	*		⑦	
26	柳林遺跡 (45に含める)								／	
27	法吉寺境内貝塚	渡辺字神明、法吉寺	丘陵麓	貝塚	奈良・平安	山林・宅地	土師器、須志器	赤教委⑤	⑤	
28	高沢貝塚 (46に含める)								／	
29	小沢貝塚	高木字小沢	丘陵	貝塚	縄文	山林	縄文土器	石巻高①	①	
30	同安神社 津江貝塚	高木字津江 * 字八幡山2の1	*	*	縄文(前・晩) 奈良・平安	*	*	、石器、骨角器	東北大 毛利コレクション①	①
31	南堤貝塚	南堤字時見	*	*	縄文(早・前 中・後・晩)	*	縄文土器(大木5・6・7a・7b・7c・7d・7e・7f・7g・7h・7i・7j・7k・7l・7m・7n・7o・7p・7q・7r・7s・7t・7u・7v・7w・7x・7y・7z・7aa・7ab・7ac・7ad・7ae・7af・7ag・7ah・7ai・7aj・7ak・7al・7am・7an・7ao・7ap・7aq・7ar・7as・7at・7au・7av・7aw・7ax・7ay・7az・7ba・7bb・7bc・7bd・7be・7bf・7bg・7bh・7bi・7bj・7bk・7bl・7bm・7bn・7bo・7bp・7bq・7br・7bs・7bt・7bu・7bv・7bw・7bx・7by・7bz・7ca・7cb・7cc・7cd・7ce・7cf・7cg・7ch・7ci・7cj・7ck・7cl・7cm・7cn・7co・7cp・7cq・7cr・7cs・7ct・7cu・7cv・7cw・7cx・7cy・7cz・7da・7db・7dc・7dd・7de・7df・7dg・7dh・7di・7dj・7dk・7dl・7dm・7dn・7do・7dp・7dq・7dr・7ds・7dt・7du・7dv・7dw・7dx・7dy・7dz・7ea・7eb・7ec・7ed・7ee・7ef・7eg・7eh・7ei・7ej・7ek・7el・7em・7en・7eo・7ep・7eq・7er・7es・7et・7eu・7ev・7ew・7ex・7ey・7ez・7fa・7fb・7fc・7fd・7fe・7ff・7fg・7fh・7fi・7fj・7fk・7fl・7fm・7fn・7fo・7fp・7fq・7fr・7fs・7ft・7fu・7fv・7fw・7fx・7fy・7fz・7ga・7gb・7gc・7gd・7ge・7gf・7gg・7gh・7gi・7gj・7gk・7gl・7gm・7gn・7go・7gp・7gq・7gr・7gs・7gt・7gu・7gv・7gw・7gx・7gy・7gz・7ha・7hb・7hc・7hd・7he・7hf・7hg・7hi・7hj・7hk・7hl・7hm・7hn・7ho・7hp・7hq・7hr・7hs・7ht・7hu・7hv・7hw・7hx・7hy・7hz・7ia・7ib・7ic・7id・7ie・7if・7ig・7ih・7ii・7ij・7ik・7il・7im・7in・7io・7ip・7iq・7ir・7is・7it・7iu・7iv・7iw・7ix・7iy・7iz・7ja・7jb・7jc・7jd・7je・7jf・7jg・7jh・7ji・7jj・7jk・7jl・7jm・7jn・7jo・7jp・7jq・7jr・7js・7jt・7ju・7jv・7jw・7jx・7jy・7jz・7ka・7kb・7kc・7kd・7ke・7kf・7kg・7kh・7ki・7kj・7kk・7kl・7km・7kn・7ko・7kp・7kq・7kr・7ks・7kt・7ku・7kv・7kw・7kx・7ky・7kz・7la・7lb・7lc・7ld・7le・7lf・7lg・7lh・7li・7lj・7lk・7ll・7lm・7ln・7lo・7lp・7lq・7lr・7ls・7lt・7lu・7lv・7lw・7lx・7ly・7lz・7ma・7mb・7mc・7md・7me・7mf・7mg・7mh・7mi・7mj・7mk・7ml・7mm・7mn・7mo・7mp・7mq・7mr・7ms・7mt・7mu・7mv・7mw・7mx・7my・7mz・7na・7nb・7nc・7nd・7ne・7nf・7ng・7nh・7ni・7nj・7nk・7nl・7nm・7nn・7no・7np・7nq・7nr・7ns・7nt・7nu・7nv・7nw・7nx・7ny・7nz・7oa・7ob・7oc・7od・7oe・7of・7og・7oh・7oi・7oj・7ok・7ol・7om・7on・7oo・7op・7oq・7or・7os・7ot・7ou・7ov・7ow・7ox・7oy・7oz・7pa・7pb・7pc・7pd・7pe・7pf・7pg・7ph・7pi・7pj・7pk・7pl・7pm・7pn・7po・7pp・7pq・7pr・7ps・7pt・7pu・7pv・7pw・7px・7py・7pz・7qa・7qb・7qc・7qd・7qe・7qf・7qg・7qh・7qi・7qj・7qk・7ql・7qm・7qn・7qo・7qp・7qq・7qr・7qs・7qt・7qu・7qv・7qw・7qx・7qy・7qz・7ra・7rb・7rc・7rd・7re・7rf・7rg・7rh・7ri・7rj・7rk・7rl・7rm・7rn・7ro・7rp・7rq・7rr・7rs・7rt・7ru・7rv・7rw・7rx・7ry・7rz・7sa・7sb・7sc・7sd・7se・7sf・7sg・7sh・7si・7sj・7sk・7sl・7sm・7sn・7so・7sp・7sq・7sr・7ss・7st・7su・7sv・7sw・7sx・7sy・7sz・7ta・7tb・7tc・7td・7te・7tf・7tg・7th・7ti・7tj・7tk・7tl・7tm・7tn・7to・7tp・7tq・7tr・7ts・7tt・7tu・7tv・7tw・7tx・7ty・7tz・7ua・7ub・7uc・7ud・7ue・7uf・7ug・7uh・7ui・7uj・7uk・7ul・7um・7un・7uo・7up・7uq・7ur・7us・7ut・7uu・7uv・7uw・7ux・7uy・7uz・7va・7vb・7vc・7vd・7ve・7vf・7vg・7vh・7vi・7vj・7vk・7vl・7vm・7vn・7vo・7vp・7vq・7vr・7vs・7vt・7vu・7vv・7vw・7vx・7vy・7vz・7wa・7wb・7wc・7wd・7we・7wf・7wg・7wh・7wi・7wj・7wk・7wl・7wm・7wn・7wo・7wp・7wq・7wr・7ws・7wt・7wu・7wv・7ww・7wx・7wy・7wz・7xa・7xb・7xc・7xd・7xe・7xf・7xg・7xh・7xi・7xj・7xk・7xl・7xm・7xn・7xo・7xp・7xq・7xr・7xs・7xt・7xu・7xv・7xw・7xx・7xy・7xz・7ya・7yb・7yc・7yd・7ye・7yf・7yg・7yh・7yi・7yj・7yk・7yl・7ym・7yn・7yo・7yp・7yq・7yr・7ys・7yt・7yu・7yv・7yw・7yx・7yy・7yz・7za・7zb・7zc・7zd・7ze・7zf・7zg・7zh・7zi・7zj・7zk・7zl・7zm・7zn・7zo・7zp・7zq・7zr・7zs・7zt・7zu・7zv・7zw・7zx・7zy・7zz	縄文土器(大木5・6)、磨製石片、丸石製石器、土師器	橋本政助①	①
32	小多田遺跡	水沼字小多田	丘陵前部	包含地	縄文(後)	山林	縄文土器(大木5・6)、石鏡、石器	橋本政助①	①	
33	橋田古遺跡	高木字橋田	丘陵	*	縄文 奈良・平安	畑	*	、土師器、須志器	赤教委①	①
34	多福院院跡	吉野町1	坂	跡	中世				③	
35	加吉屋敷貝塚	加吉字屋敷 29-1-4	丘陵麓	包含地 (一部貝塚)	縄文(前) 古	宅地	縄文土器(大木5・6)、磨製石片、丸石製石器、土師器	橋本政助①	①	
36	長谷寺院跡	高野字奈良			中世				⑥	
37	アチヤ遺跡	坂の字アチヤ 1-4	丘陵麓	包含地	縄文(早)	畑・水田 宅地	縄文土器(早)	豊島高次郎⑧	⑧	
38	吉祥寺境内院跡	渡辺字福吉道	丘陵	院跡	中世				⑧	
39	本堂の礎 * 字吉田道				*				⑧	
40	梅+丘栗跡	泉町2	丘陵麓	栗跡	奈良(末) 平安(初)	宅地	土師器、須志器(回転木回り)、栗道具	東北大 渡辺治平③	③	
41	箕輪山貝塚	大仏字柳橋	丘陵	貝塚	奈良(末) 平安(初)	*	*	、須志器、骨角器	赤教委②	②
42	際遺跡	渡辺字際	丘陵麓	包含地	奈良	山林	土師器(兼用)		⑤	
43	根塚貝塚 * 字敷山 * 字早敷山		*	貝塚	縄文(前・中) 古	山林	縄文土器(大木1-5・6・7a・7b)、石器、石鏡、磨製石片、骨角器、土師器、須志器	毛利コレクション 佐々木富大⑤	⑤	
44	赤水圃貝塚 * 字赤水	砂塚	砂塚	古墳 中世	丘陵・水田 原野	畑・水田	縄文土器、須志器、土師器、骨角器、土師器、須志器、土師器、須志器	宮城水産高⑤	⑤	
45	一本杉貝塚 * 字沼崎	丘陵麓	*	貝塚	古墳 奈良・平安	山林	石鏡、石器、磨製石片、須志器、土師器、須志器	橋本政助①	①	
46	内原遺跡	高野字小山	丘陵	*	縄文 奈良・平安	*	土師器、須志器	高橋克伸①	①	
47	寺前貝塚	高木字寺前	丘陵麓	*	縄文(晩)	畑	縄文土器		①	
48	安楽寺跡	水沼字寺内	丘陵	寺院跡	鎌倉・室町	畑・水田 原野			①	
49	水沼船跡	* 字船下	丘陵	船跡	中世	山林			①	
50	蟹ノ葉船跡	大仏字蟹ノ葉	*	*	*	山林・原野			①	
51	南堤船跡 (金沢古船)	南堤字金沢	*	*	*	山林			②	
52	小・屋船跡 (長崎船、長崎船)	高野字小山	*	*	*	山林			②	
53	町貝塚	渡辺字町	丘陵麓	貝塚	縄文・中世	宅地	須志器、漆地物残片		②	
54	水貫山遺跡	南堤字水貫山	*	包含地	平安	山林・畑 宅地	土師器、須志器	赤教委②	②	
55	磯田貝塚	沢田字磯田一番	*	貝塚	縄文・平安	畑	縄文土器(早)、土師器、須志器	*	②	

石巻市文化財だより

遺跡番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	地目	出土品	出土品の所在地	備考
56	平形山根貝塚	沢田字平形山根	丘陵	貝塚	平安	畑	土師器、須恵器	市教委	⑤
57	日影山貝塚 (寺)	* 字平形日影山	*	貝塚	中世・近世	山林			⑤
58	平形貝塚	* 字平形	*	貝塚	平安	畑	土師器、須恵器	市教委	⑤
59	横野山 (高野遺跡)	高野字八森山	丘陵斜面	城郭	中世	山林			⑤
60	寺前跡	* 字寺前 山上	*			山林			⑤
61	沢田日影山跡	沢田字平形日影山	丘陵	城郭	中世	山林内			⑦
62	大和田遺跡	青内字坂上山	丘陵	城郭	*	山林			⑧
63	陣ヶ森遺跡	高野字小森山	*	*	*	山林			⑧
64	竹ノ下遺跡	高野字竹ノ下	*	*	*	*			⑨
65	鷹鬼山寺跡	字舟石山	丘陵中腹	寺院跡	平安・近世				⑩
66	田道町遺跡 田道町2	自然堤防	包含地	古墳群	平安	畑	土師器、須恵器	市教委 本久 男	⑩
67	伊勢津保遺跡	浪子夷曲山	丘陵	城郭	弥生・古墳?	宅地	弥生土器片、土師器	毛利コレクション	⑩
68	鹿妻貝塚	鹿妻字山崎、字鹿妻 字鹿妻	砂地	貝塚	縄文 近世・中世?	畑 宅地	瓦葺破片		⑩
69	大沢遺跡	鹿沢中大沢	丘陵	包含地	平安	道路敷	焼石、魚骨、製塩土器	市教委	⑪
70	取根榎下貝塚	取根字取根榎	丘陵	貝塚	縄文・中世	水田			⑪
71	早坂山跡	鹿沢字早坂山	丘陵	城郭	中世	山林			⑪
72	野坂山跡	* 字野坂山	丘陵中腹	砂地	*	*			⑪
73	青木山遺跡	* 字青木山	丘陵	包含地	奈良・平安	*	土師器、須恵器、製塩土器		⑪
74	新山崎遺跡	新山崎 字丸沢	自然堤防	*	古墳群・平安	畑 宅地	*		⑪
75	新金沼遺跡	* 字新金沼	砂地	生産遺跡	中世・近世	*	鉄滓		⑪
76	高木古窯跡	高木、石崎、高田	丘陵	城郭	中世	山林			⑪
77	鹿崎貝塚	浪沢字鹿崎	砂地	貝塚	縄文 中世・近世	畑			⑪
78	山崎遺跡	小竹浜字山崎寺	丘陵斜面	包含地	縄文	山林			⑪
79	沢渡遺跡	沢渡字有田沢	*	*	*	*	石楕	女川御用寺	⑫
80	稲荷社下遺跡	稲荷字仁十田	丘陵	*	平安	*	土師器		⑫
81	京ヶ森跡	浪沢字竹ノ森 高野字野坂山	丘陵	城郭	中世	山林			⑫
82	田代島十三塚	田代島字七ツ塚	丘陵尾根	城郭	近世	山林			⑫
83	日和山城跡	日和山丘2	丘陵	城郭	中世	宅地内			⑫
84	鹿崎山跡	八幡町2	*	*	*	宅地			⑫
85	狐崎城跡	狐崎字狐崎	丘陵斜面	*	*	山林 畑			⑫
86	平形山跡 (牛ノ崎跡?)	沢田字平形	丘陵	*	*	山林			⑫
87	出雲塚跡	浪沢字越田	丘陵	*	*	宅地			⑫
88	水沼古窯跡	水沼字小多田	*	*	*	山林			⑫
89	三日坊跡	高木字小沢	*	*	*	*			⑫
90	大瓦古窯跡 (お原敷跡)	大瓦字寺崎	*	*	*	山林			⑫
91	牛ノ崎跡	沢田字裏沢田	*	*	*	*			⑫
92	鶴子坂跡	浪沢字八幡山	*	*	縄文・平安	山林内			⑫
93	(スヶ谷沢遺跡)	狐崎字スヶケリ	海 段	貝塚	縄文(前・中) 平安	山林	縄文土器(大木26、3、4、6d、9、10) 石楕、土師器	市教委	⑫
94	法皇寺跡	浪子御所入山	丘陵中腹	寺院跡	近世	畑			⑫
95	寺中堀遺跡	水沼字寺中堀	谷底中腹	生産遺跡 (製鉄)	中世 近世	畑	磁 石 炭		⑫
96	内原東遺跡	高野字内原	丘陵斜面	*	中世 近世	畑			⑫
97	小森山遺跡	* 字小森山	*	生産遺跡 (製鉄?)	中世 近世	山林			⑫
98	神林遺跡	鹿沢字神林	丘陵	包含地	縄文	畑			⑫
99	志保遺跡	沢田字志保	谷	城郭	*	山林	縄文土器(大木8a)		⑫





3

2

1

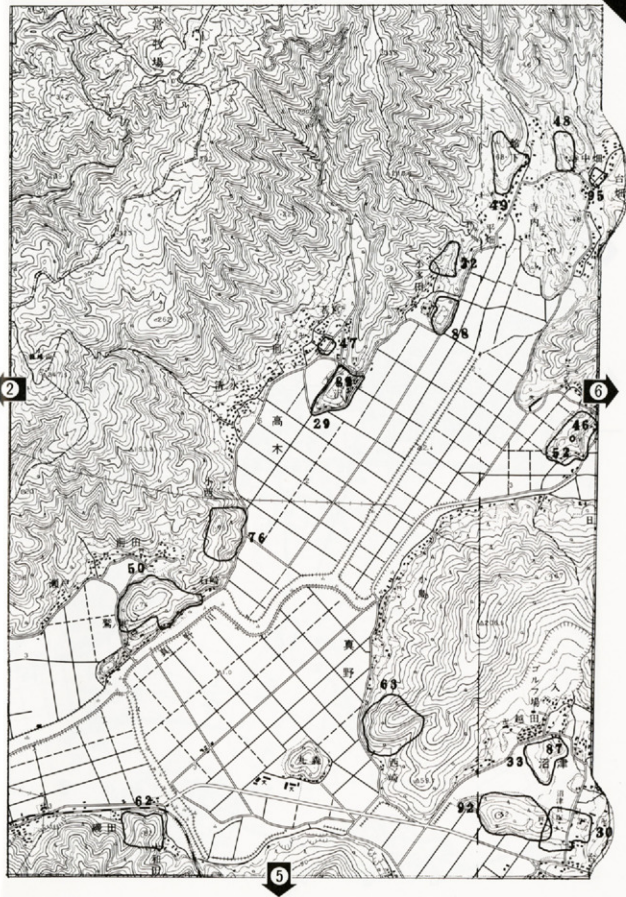
5

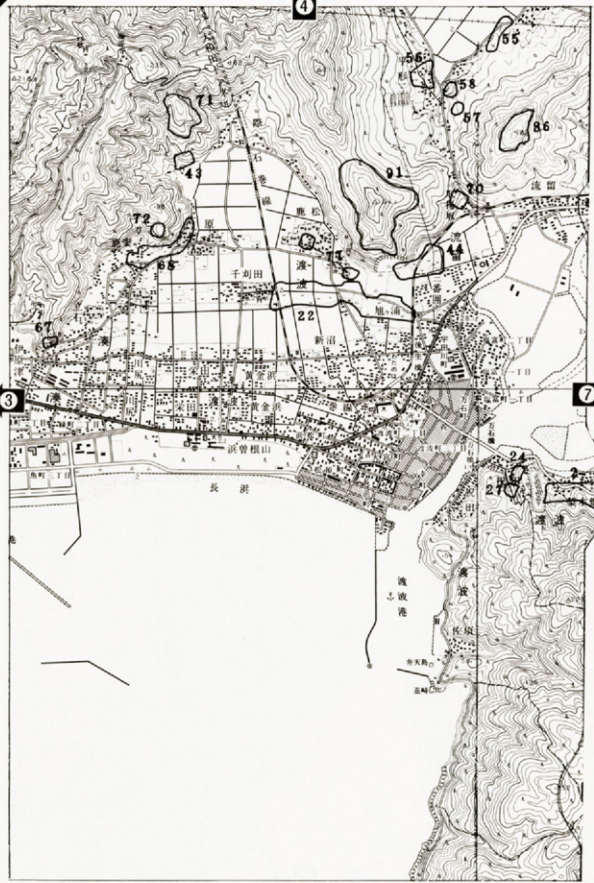


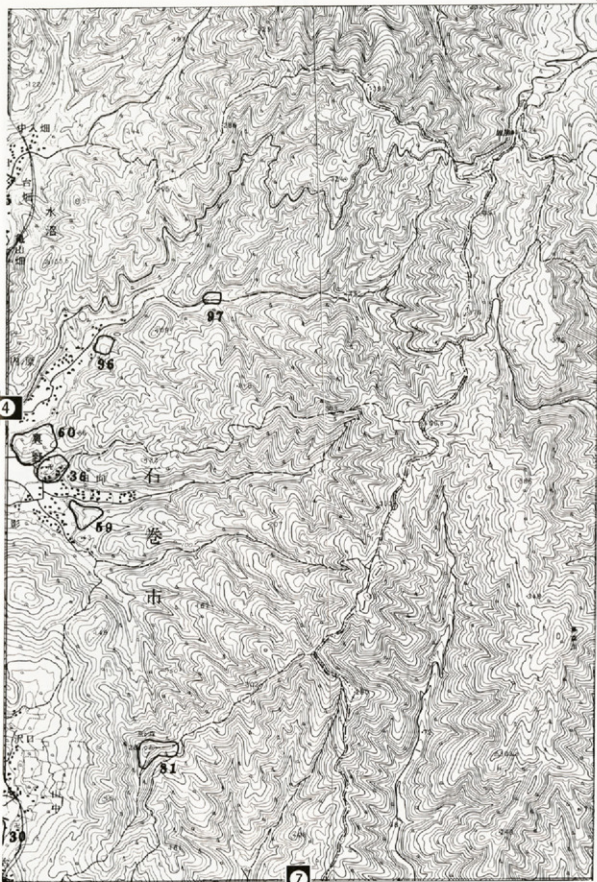
石巻市

石巻港

石巻湾











紙面
島

石巻市文化財だより

石巻市文化財だより概刊号案内

○印在庫あり

第一号	<p>昭和49年1月1日〈田代特集〉</p> <p>仁斗田貝塚の概観（楠本政助）</p> <p>金石文・経塚について（佐藤雄一）</p> <p>平塚八太夫文書について（木村敏郎）</p> <p>田代島の神社・仏閣（三宅宗議）</p> <p>漆草刈山所在古碑群の移転</p>	第八号○	<p>昭和54年3月31日〈昭和52年度文化財調査特集〉</p> <p>大浜遺跡発掘調査（木村敏郎）</p> <p>昭和52年度古文書分布調査報告（石垣 宏）</p> <p>南境地区民俗資料・民具収集調査報告（鈴木東行）</p> <p>巨樹・名木等分布調査報告（佐々木豊）</p>
第二号	<p>昭和49年5月10日〈特集・市内文化財の現状〉</p> <p>埋蔵文化財の現状（木村敏郎）</p> <p>石巻市・板碑の現状（佐藤雄一）</p> <p>石巻市の自然林—現状と保護について—（佐々木豊）</p> <p>近世・近代資料の現状（石垣 宏）</p> <p>住吉の田毛利家（高橋勇一郎）</p> <p>石巻鋳銭場と斉太郎館（石島恒夫）</p> <p>根岸地区民俗資料調査報告その1（鈴木東行）</p>	第九号○	<p>昭和55年3月31日〈昭和53年度文化財調査特集〉</p> <p>平形山根貝塚発掘調査報告（木村敏郎）</p> <p>昭和53年度古文書分布調査報告（石垣 宏）</p> <p>水沼東沢地区民俗資料・民具収集調査報告（鈴木東行）</p> <p>鋳銭場資料『金局公用誌』について（石垣 宏）</p>
第三号	<p>昭和50年3月29日〈昭和49年度文化財調査概報〉</p> <p>高木観音堂板碑群調査の概要（佐藤雄一）</p> <p>近世の古文書—鹿立・平塚文書—（石垣 宏）</p> <p>祝田浜民俗調査報告（鈴木東行）</p> <p>牧山地域の植生について（佐々木豊）</p>	第十号○	<p>昭和56年3月31日〈昭和54年度文化財調査特集〉</p> <p>石巻市指定文化財について</p> <p>昭和54年度古文書分布調査報告（石垣 宏）</p> <p>水沼西沢地区民俗資料収集調査報告（鈴木東行）</p> <p>南境館跡測量調査報告（木村敏郎）</p>
第四・五号	<p>昭和51年6月20日〈多福院特集・昭和50年度文化財調査特集〉</p> <p>日輪山多福院の板碑群（佐藤雄一）</p> <p>多福院文書・その他の文化財について（石垣宏）</p> <p>石巻市稲井地方の地質（高橋清治・菅原祐輔）</p> <p>東浜地区生産民具（漁具）収集調査報告（鈴木東行）</p> <p>稲井地区古文書分布調査（石垣 宏）</p> <p>石巻の店蔵—高橋茶舗—（高橋勇一郎）</p>	第十一号○	<p>昭和57年3月31日〈昭和55年度文化財調査特集・小竹浜地区の文化財〉</p> <p>石巻市指定文化財について</p> <p>昭和55年度板碑分布精密調査報告（佐藤雄一）</p> <p>昭和55年度古文書分布調査報告（石垣 宏）</p> <p>小竹浜地区民俗資料・民具収集調査報告（鈴木東行）</p> <p>弁天島植生調査報告（佐々木豊）</p>
第六号	<p>昭和52年11月25日〈昭和51年度文化財調査特集〉</p> <p>方孔石について（高橋清治・菅原祐輔）</p> <p>石巻市狐崎萱刈浜板碑群調査報告（佐藤雄一）</p> <p>田代島平塚文書文録について（石垣 宏）</p> <p>田代島民俗資料調査・民具収集調査報告（鈴木東行）</p>	第十二号○	<p>昭和58年3月31日</p> <p>石巻市指定文化財について</p> <p>昭和56年度文化財調査報告—南境地区の板碑—（佐藤雄一）</p> <p>石巻市内におけるモクゲンジの分布状況調査報告（佐々木豊）</p> <p>越田台遺跡発掘調査報告（一）（木村敏郎）</p> <p>真野日向日影民俗資料調査報告（鈴木東行）</p> <p>五松山洞窟遺跡発掘調査の概要（三宅宗議）</p>
第七号○	<p>昭和53年3月31日〈埋蔵文化財緊急発掘調査特集〉</p> <p>狐崎スケカリ浜遺跡の発掘調査—漁港関連道路建設にかかわる緊急調査—</p> <p>沼津貝塚の発掘調査—史跡標識設置部分発掘調査—</p> <p>梨木畑貝塚の発掘調査—人骨埋葬状況調査—</p>	第十三号○	<p>昭和59年3月31日</p> <p>稲井大瓜地区の板碑分布調査（佐藤雄一）</p> <p>月浦民俗・民具資料調査報告（鈴木東行）</p> <p>市内にある日本の重要な植物群について（佐々木豊）</p> <p>毛利コレクション所蔵文書—伊達家文書（一）—（石垣 宏）</p>

石巻市文化財だより(第14号)

昭和60年3月31日印刷

昭和60年3月31日発行

発行 石巻市教育委員会
石巻市日和が丘一丁目1番1号

印刷 株式会社 松 弘 堂
石巻市門脇字本草園2-16
☎ (0225) ☎ 5 5 5 5 的